



2005年度 由岐中学校 防災教育 実施報告書



徳島県由岐町立由岐中学校
徳島県由岐町総務課

大田 弘士
浜 大吾郎

もくじ

はじめに

第1章 2005年度由岐中学校防災教育の概要

1-1 由岐町の概要	2
1-2 由岐町の被害想定	3
1-3 過去の被害特性	4
1-4 由岐町立由岐中学校の概要	5
1-5 2005年度由岐中学校防災教育の概要	6
1-6 2005年度由岐中学校防災教育の流れ	7

第2章 知る・調べる・考える

2-1 1学期の取り組み	8
2-2 災害の恐ろしさを知る	9
2-3 災害を語り継ぐ(過去の被災状況を知る)	17
2-4 防災訓練	18
2-5 地震津波のメカニズムを知り、防災対策を考える	19
2-6 地域を調べる(防災マップをつくろう)	27
2-7 防災と福祉の関係を知る	30
2-8 地域の人々の災害体験や防災対策を調べる(災害防災インタビュー) ..	33

第3章 考える・つくる・広める

3-1 2学期、3学期の取り組み	38
3-2 防災カレンダーづくり 「1～6月まで」	39
3-3 防災カレンダーづくり 「防災標語」	42
3-4 防災カレンダーづくり 「今日は何の日フッフ～」	46
3-5 未来予想図 ～災害復興会議～	54
3-6 防災カレンダーづくり 「7～12月まで」	64
3-7 防災意識を地域に広める(防災カレンダーの配布)	79
3-8 防災学習を終えて(生徒達の感想)	80

おわりに

はじめに

防災教育は無量大の可能性を秘めた教科である。なぜなら防災教育は、様々な分野や教科と繋がることができるからである。

防災教育を単なる知識の切り売りの授業としてしまうのか、それとも、生徒が自ら考え、様々なことに興味を持つ「場づくり」とするのか、それは当然のことながら仕掛け人である教師やスタッフの知識、技能、ネットワーク、モチベーションに大きく左右される。しかし教師が持っている防災知識やネットワークでは不十分な場合があり、また行政側には学習指導に関するノウハウが全く足りない、というのが現状ではないだろうか。

そこで我々は、教師と役場職員が協働することでお互いの長所を活かし、かつ短所を補完することに努めながら防災教育を実践した。そして防災教育を通じて生徒が防災に関する知識技能を習得し、人や地域を大切に思う心、日常を大切にする心を育むことを目指した。

第1章 2005年度由岐中学校防災教育の概要



1-1 由岐町の概要

- ・ 位置 徳島県の南、海部郡の最東端
- ・ 面積 23.16km² (東西13.6km、南北1.7km)
海岸線に沿って細長く広がる。
- ・ 人口 3,401人 (H18.1.1現在) 高齢化比率 39.52 %
- ・ 自主防災組織 8 組織 / 10 地域 (組織率 90.01%)



志和岐



阿部



伊波利



木岐



田井



由岐(東由岐、西の地、西由岐)

由岐町は太平洋に面し、6つの入り江とその背後のわずかな平地に集落を形成している。

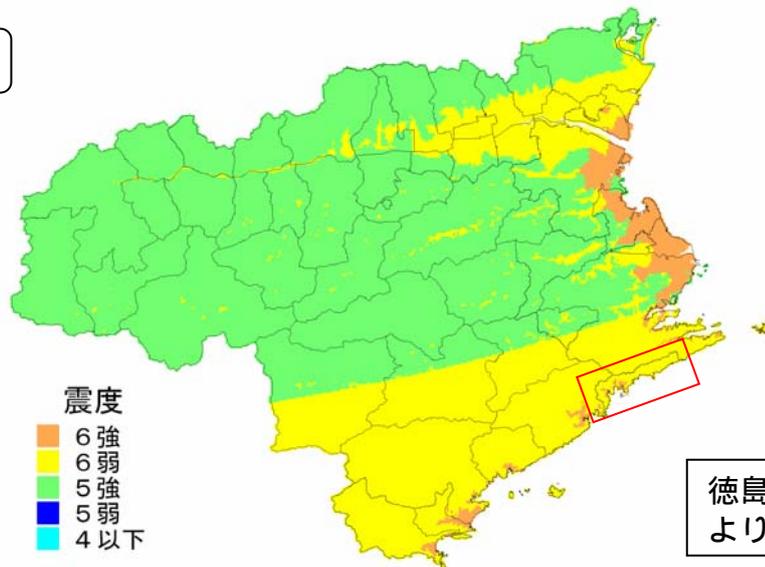
1-2 由岐町の被害想定

東南海・南海地震が動じ発生した場合

- ・震度 6弱～6強
- ・津波 第1波 約12分（海面+20cm上昇を第1波とする）
最大津波高 T.P.+7.73m（由岐漁港において）
- ・死者数 294人（強風、津波避難意識が低い場合）
- ・全壊棟数 1,003棟

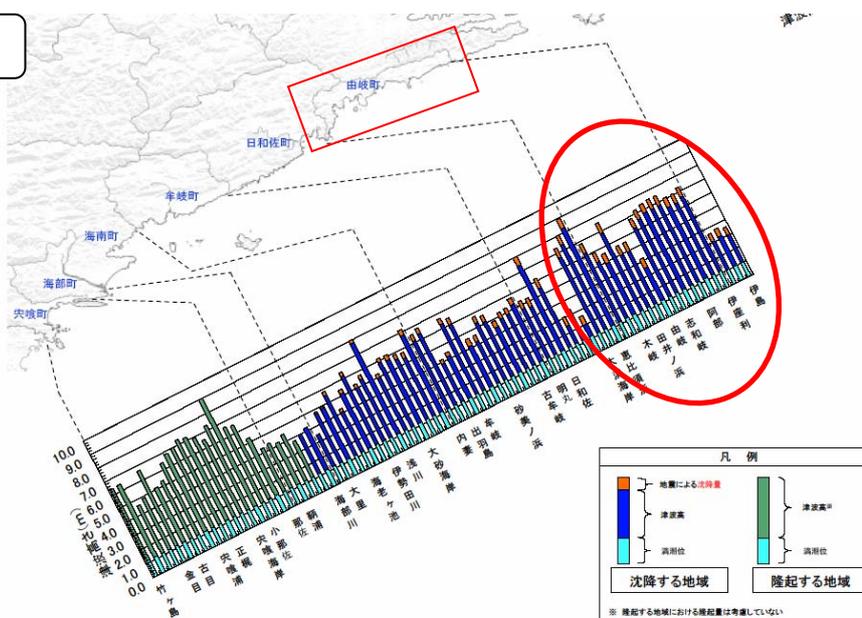
被災後、地域が復興できず、消滅してしまう可能性もある

最大震度分布



徳島県地震動被害想定調査より（平成17年3月）

最大津波高



平成15年度徳島県津波浸水予測調査より

1-3 過去の被害特性

由岐町は南海地震により、破壊と再生を繰り返してきた町である。

- ・1361年 正平の南海大地震

『太平記』にも由岐町の地震被害の記事が記載されている。

「なかでも阿波の雪みなどでは俄に大山の如き潮張り来りて在家千七百余宇ことごとく引潮に連れて海底に……」

- ・1854年 安政南海地震

『東由岐当家帳』に当時の状況が詳しく記載されている。

「この時強欲な人皆流れ、欲を捨てたる人は逃げ行きおおせたり」

- ・1946年 昭和南海地震

下表のとおり



南海地震に関する日本最古の板碑
「康暦の碑」(由岐町東由岐)

〔直接由岐町に史料のあるものとしては、正平地震(1361)、慶長地震(1605)、宝永地震(1707)、安政地震(1854)、昭和南海地震(1946)がある。〕

昭和南海地震

発生年月日	昭和21年12月21日午前4時19分
震源地	和歌山県沖 北緯33.0° 東経135.6° (由岐町の南東35kmの海底を震央とし、東西に長く延長していったとみられる)
深さと規模	深さ20km マグニチュード 8.1
被害	<p>全国で死者1,400人(徳島県では211人)、損壊家屋1万5千戸。房総半島から九州沿岸にかけて津波が発生し、溺死者多数。</p> <p>由岐町では地震発生約12分後に津波が到達し、大波が3回襲い、漸次低下していった。この津波はほぼ満潮時に生じ、波高は第2波が最高で、由岐、木岐ともに3.6m。618戸の家が床上0.9~1.3の浸水を受け、流失家屋は43戸に及んだ。死者は8人、重軽傷者は24人。</p>



気象庁地震津波監視課所蔵

1-4 由岐町立由岐中学校の概要

由岐中学校(本校)は全校生徒84人、1学年1学級の比較的小規模の中学校である。「自律協同」を校訓として、主体的かつ協動的に生きられる人づくり、学校づくりを目指している。

教育目標

人権尊重の精神を基盤として、個性・能力の伸長を図り、たくましく生きる生徒像を育成する。

めざす生徒像

- 正しく判断し、自分の行動に責任を持てる生徒
- 将来への展望と目標を持ち、努力する生徒
- 人権を尊重し、思いやりのある生徒
- 郷土を愛し、集団や社会の中で自己を生かせる生徒

めざす教師像

- 教職にあることへの感謝と、教育への情熱・使命感を持つ教師
- 生徒との人間関係を深め、愛情を基盤とした厳しさと受容の精神で生徒指導にあたる教師
- いつも誠実な心で、生徒のために、生徒とともに

各分野での重点事項

誇りの持てる由岐中学校の創造

- | | |
|-----------|---|
| 学級経営の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営が学校経営の最大の柱 ・生徒が主役になる学級づくり |
| 学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を引き出す授業、分かる授業の創造と実践 ・指導方法・指導体制(習熟度の違いに応じた指導等)の工夫 |
| 人権教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己効力感を高め、自分に自信の持てる生徒の育成 ・人権教育構想図の具現化 |
| 生徒指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒との人間関係を深めた生徒理解の徹底 ・意欲的な生活力の育成 |
| 進路指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着化 ・進路選択能力の育成 |
| 開かれた学校の創造 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛され信頼される学校づくり
(保護者の意向を適切に反映した学校経営) ・学校の情報提供、学校公開 |
| 安全教育の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の確立 ・防災教育の推進 |
| 部活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく思い出に残る部活動運営 ・部活動を通じた人づくり |

1-5 2005年度由岐中学校防災教育の概要

目 的

過去の被害特性からも分かるように、由岐町は過去に何度も南海地震津波によって破壊と再生を繰り返してきた。そして今後30年以内に約50%の確率で、再び繰り返されようとしている。

このような中、地域と行政は、平成9年頃から自主防災組織を結成して防災意識の高揚と、地域防災力の向上に努めてきたが、決して高いレベルとは言えない。また少子高齢化、過疎化、産業の衰退など社会的マイナス影響を受け、今後地域全体で何も努力しなければ、地域力はますます右肩下がりになっていくと思われる。

そこで今回の防災教育では、生徒達が防災に関する知識・技能を習得し、地域防災上の課題解決方法などを考案する。そしてその成果を防災カレンダーにして地域全戸に配布することにより、生徒達が地域防災力の向上に貢献することを目的とした。

またそれに加え、中学生自身が防災教育を通じて自分の地域を知り、地域を愛し、将来の地域の担い手となることを目指した。

3つの目標

- ・ 防災に関する知識・技能の習得
- ・ 人、地域を大切に思う心の育成
- ・ 協同の精神の育成

対象及び人数

由岐中学校 1学年 32人

実施日時

2005年5月13日～2006年2月24日

「総合的な学習」の時間を利用した。

延べ授業時間は40時間（1時間＝50分）

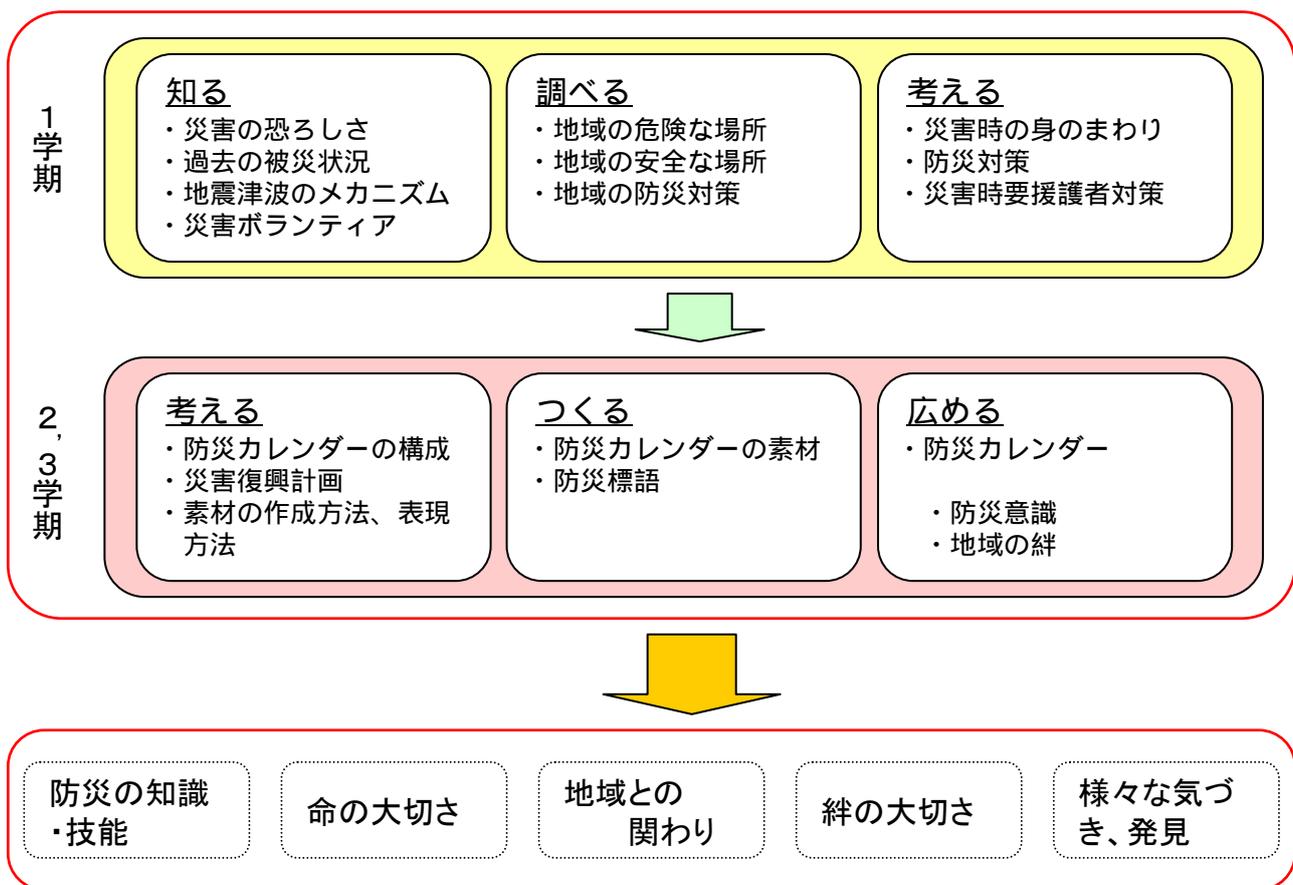
なぜ防災カレンダーなのか

- ・ 防災に関する素材づくり、防災標語、過去の災害の起きた日など、防災に関して幅広く関わるができる。
- ・ モノづくりの楽しさを味わうことができる。
- ・ 地域防災力を向上させるためのツールとして活用することができる。
- ・ 生徒はもちろんのこと、地域にとっても宝物となる。

日常的に見るものと、見せたいものとをハイブリッド化

1-6 2005年度由岐中学校防災教育の流れ

学習プラン全体を防災の内容だけで固めてしまうのではなく、生徒達が防災教育を通じて、防災はもとより、グループワークの楽しさやモノをつくる楽しさなど、様々なことに興味を持つような仕掛けづくりをプランニングした。具体的には、プランを前半と後半に分け、前半は「知る・調べる・考える」をキーワードにして防災や福祉に関する学習、地域の調べ学習等を実施した。後半は「考える・つくる・広める」をキーワードにして復興計画の検討、防災カレンダーづくり、地域への啓発を実施した。



第2章 知る・調べる・考える



2-1 1学期の取り組み

2005年度由岐中学校防災教育の対象となった1学年は当初、防災に関する知識技能がほとんどない状態であった。そこで我々は、徳島大学の村上仁士教授が提唱する「地震津波防災の基本」をカリキュラム・デザインのベースにして、1学期のカリキュラムを組み立てた。それによって、生徒達が防災の知識技能を習得し、生徒自らが防災や地域について調べたり、考えるようになることを目指した。

地震津波防災の基本

地震津波の恐ろしさを知る。

過去の被災状況を知る。

次に起こる地震津波を予測評価する。

地震津波の対策を実施する。

提唱者 / 徳島大学 村上 仁士 教授

1学期のカリキュラム

5月13日	「地震津波の恐ろしさを知る」
5月16日	「災害を語り継ぐ」
5月17日	「防災訓練」
5月20日	「地震津波のメカニズムを知り、対策を考える」
6月3日、10日	「地域の防災マップをつくろう」
6月17日	「防災と福祉を考えよう」
7月1日、8日	「災害防災インタビュー」
7月15日	「1学期を振り返る」

2-2 災害の恐ろしさを知る

目 的

過去に日本で起きた地震津波災害映像を観ることで、地震津波の恐ろしさを知る。続いてグループワークでは、災害時の自分の身の回りの物や人などについて自ら考え、生徒どうし共同で進めていく力を養う。



グループワークで話し合っている様子

流 れ

1. 「20世紀 日本の地震災害」を鑑賞
2. グループワーク「災害時の身の回りを考える」
 - (1) 5～6人の班に分かれる。
 - (2) 「災害時に心配な物や人・危険な物や人」について、思いつくままに白色の大型付せん紙に書き、模造紙に貼る。
 - (3) 同様に「災害時に役立つ物や人・大切な物や人」について、思いつくままに緑色の大型付せん紙に書き、模造紙に貼る。
 - (4) 班ごとに発表する。
 - (5) アンケート（学習のふり返し）

「フリーダム」班

災害時に心配な物や人、
災害時に危険な物や人

こども

タンス

土砂くずれ

老人

津波

山の近くの家

食べ物

食器

火

家族

本だな

電柱

命

刃物

避難場所

友達

地震

電気製品

飲み物

ガラス

ペット

災害時に役立つ物や人、
災害時に大切な物や人

ライト

避難場所

出口

金

家族

かばん

消防団

ラジオ

警察官

ペット

防寒着

携帯電話

気力

友達

ボール

救急セット

車いす

時計

救助隊

体力

飲み物

命

食べ物

防空ずきん

「外野の人たち」班

災害時に心配な物や人、
災害時に危険な物や人

家族

天井

山

弟

火

古い建物

ともだち

タンス

高い建物

お年寄り

ガラス

愛犬

電気

恋人

幼児

家

海

好きな人

災害時に役立つ物や人、
災害時に大切な物や人

ラジオ

水

親せき・いとこ

自分

避難場所

組み立て式
トイレ

テレビ

野球道具

懐中電灯

灯

非常食

救急隊

近所の人

好きな人

毛布

ケイタイ

友達

金

トランプ

親

電話

ペット

お風呂

「くまちゃん」班

災害時に心配な物や人、
災害時に危険な物や人

木の家	窓ガラス	危険な薬品
崩れやすい山	本だな	火事
港の近くの家	タンス	川の増水
小さい子供	ガスボンベ	津波
蛍光灯のガラス	家電製品のコード	細い道
お年寄り	テレビ	
高い所の物	食器だな	
	地われ	

災害時に役立つ物や人、
災害時に大切な物や人

懐中電灯	携帯電話	タオル	本	コンビニ
友達	ライター	服	電池(アルカリ)	テレビ
マッチ	水	水筒	大きな音の 出る物	食器
保存食	自分の足	生命力	ふとん	
好きな人	ラジオ	声	時計	
食料	金(財産)	自分	安全な場所	
家族	ペット	薬	寝る場所	
自分の頭	命	包帯	何かの入れ物	
	医者	くつ	先祖の位牌	

「個人軍」班

災害時に心配な物や人、
災害時に危険な物や人

火事

電線

高い所にある物

津波

体が不自由な
人

せまい路地

土砂くずれ

高い建物

ガラス

子供

古い建物

がけ

川

足腰が弱い人

電気

大きい本

ガス

電信柱

大きい木

災害時に役立つ物や人、
災害時に大切な物や人

命

防災ずきん

お金

はんこ

通帳

懐中電灯

水

ペット

新聞

身分証明書

家族

ラジオ

時計

車？

保存食

放送

救急箱

自転車？

レスキュー隊

避難場所

毛布

水道

友達

くつ

衣類

避難バッグ

リュック

医者

体力

ヘリコプター

テレビ

服

かさ

「サランラップ」班

災害時に心配な物や人、
災害時に危険な物や人

- | | | | |
|--------|----------|-------|----|
| 老人ホーム | 家族 | ブロック塀 | 火 |
| 保育園 | 海の近くの家 | 電柱 | 病人 |
| がけ | ガラス | 橋 | |
| 古い建物 | タンス | 屋根の瓦 | |
| 古い木造 | 銅像 | 海にいる人 | |
| 山の近くの家 | 駅 | 病院の人 | |
| | お金 | 海の水 | |
| | ガソリンスタンド | ガス | |

災害時に役立つ物や人、
災害時に大切な物や人

- | | | | | |
|-------|----------|---------|------|-----|
| 笛 | スリッパ(くつ) | ふくろ | 老人 | ナイフ |
| 食べ物 | 避難地図 | 毛布 | 携帯電話 | 船 |
| 防災ずきん | 光 | ライター(火) | テント | 電池 |
| 水 | 家族 | 子供 | ローソン | ペット |
| 男の人 | 消防団 | 衣類 | 薬品 | くつ下 |
| ラジオ | トイレ | 自動車 | 新聞 | |
| ライト | 命 | 自転車 | テレビ | |
| 金 | 体 | 紙 | 若者 | |
| | | スーパーマン | | |

「読売巨人軍」班

災害時に心配な物や人、
災害時に危険な物や人

海に近い人	木造の家	住宅地	橋	病院
山に近い人	鉄橋	台所	土地の高い 所にいる人	金品
古い家	人が集まる所	舟に乗っている 人	海岸	食料
ブロック塀	火	車で逃げた人	学校	
がけ地帯	電気	大きい家具	線路近く	
ガラス		電線		

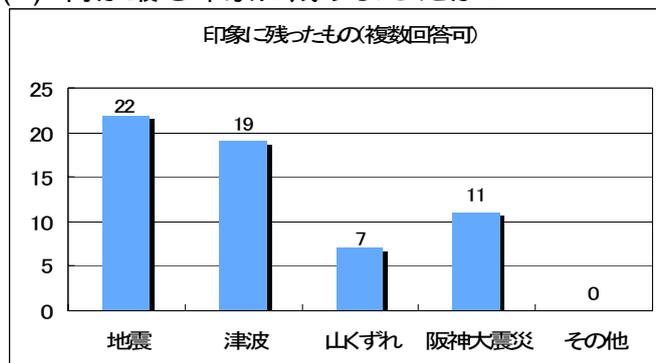
災害時に役立つ物や人、
災害時に大切な物や人

食料	ゲーム	タオル	バンソーコ	プレハブ	スーパー
ペット	MDプレイヤー	若者	ローソン	ばんそうこ	くつ下
金	家族	持ってきたもの	薬(医者)	くつ	バーナー
ラジオ	光	方位磁針	ヘリコプター	ライター・マッ チ・ろうそく	時計
電気	着替え	トイレ	好きな人	バッグ	タオル
車	ブザー	救急車	友達	勉強道具	気力
お年寄り	お風呂	防災ずきん	レスキュー隊	ふとん	スーパーマン
避難所	自転車	安全地帯	本	テント	
鉄道	新聞	ねこ車	ふろ敷		

アンケート結果(災害の恐ろしさを知る)

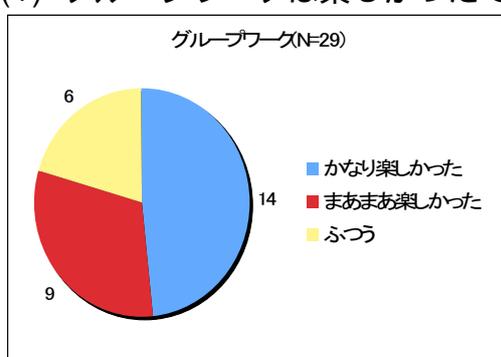
1. DVD「20世紀 日本の地震災害」について

(1) 映像は、印象に残りましたか？ (2) 何が最も印象に残りましたか？



2. グループワークについて

(1) グループワークは楽しかったですか？



(2) 何が楽しかったですか？

- ・みんなでいろんな意見を出し合って発表したこと。
- ・考えつかないことなどが、他の班からも出てきておもしろかった。
- ・班でいろいろ一緒に考えたことが楽しかった。
- ・みんなの意見がバラバラで、いろんな意見が聞けて良かった。

などなど

(3) 災害時に大切な物や人は何ですか？

- ・家族、写真、命
- ・老人、友達、食料
- ・家、お金、家族、親戚
- ・水、ライト、ラジオ
- ・ペット、家族
- ・好きな人、友達

などなど

(4) 災害時に心配な物や人は何ですか？

- ・家族、命
- ・老人、友達、子供、食料
- ・家、お金、家族、親戚
- ・近くに山があるから、「土砂崩れ」
- ・みんな、古い家、塀
- ・ペット、タンス、古い家、割れ物

などなど

3. 自由回答

- ・とても地震がこわいと分かった。
- ・班で災害時に危険、または役に立つものを書き出した時、意外に思いつかなかった。
- ・グループワークがけっこう楽しかった。
- ・家を耐震化したい。
- ・とても勉強になった。災害が起こった時は勉強した物に気をつけて避難したい。
- ・心構えが必要だと思いました。
- ・ビデオを観て学習するのは分かりやすくてよかった。
- ・災害のことを学んでぼくはもっと、災害のことを考えないといけないと思った。
- ・グループワークであれが一人で考えなさいとなると、あまり意見が出なかったと思います。みんなと一緒にいいです。
- ・楽しかった。いつもこんな感じがいい。
- ・眠かったよ。

などなど

2-3 災害を語り継ぐ(過去の被災状況を知る)

目的

昭和南海地震の体験談や、昭和南海地震に関する物語の朗読を聴くことで、過去の被災状況や、災害の恐ろしさ、命の尊さについて知る。

流れ

1. 昭和南海地震津波の体験談を聴く(眞南卓哉氏)
 - (1) 眞南氏に、昭和南海地震の体験談を話して頂き、その話に話に合わせて、昭和南海地震の写真のスライドで見せる。
2. 朗読「シロのないた海」(四宮治義氏)
 - (1) 四宮氏に、物語「シロがないた海」を朗読して頂き、その朗読に合わせて、物語の絵のスライドで見せる。
3. 質疑応答



昭和南海地震体験を語る様子



「シロのないた海」を朗読する様子

2-4 防災訓練

目的

災害を疑似体験(起震車による地震体験)したり、心肺蘇生講習を受けることで、災害時に的確に行動できる技能を習得する。

流れ

- 1．起震車による地震体験
 - (1) 班ごとに起震車による地震を体験する。
(地震から身を守る練習、火の元の安全確保を行う練習)
- 2．心肺蘇生講習
 - (1) 班ごとに心肺蘇生講習を受ける。
 - (2) 講習後、キーホルダー型フェイスシールドを全員に配る。
- 3．質疑応答



起震車による地震体験の様子



心肺蘇生講習の様子

2-5 地震津波のメカニズムを知り、防災対策を考える

目的

講義では地震津波発生メカニズムや、次に起こる南海地震津波の被害想定を理解する。続いてグループワークでは、GW「災害時の身の回りを考える」でのカードをKJ法でまとめ、そこから見えてくる災害時の対策について考える。



中野先生の講義の様子

流れ

1. 講義「南海地震が起これば由岐町はこうなる！」(徳島大学 中野晋先生)
 - ・地震津波発生メカニズム
 - ・南海地震の被害想定など
2. グループワーク「防災対策を考える」(カードの仲間分けゲーム)
 - (1) 前回と同じ班に分かれる(6班)。
 - (2) 前回のグループワークで作成した模造紙、ポストイット、及びマジックを各班に配付する。
 - (3) 前回のカードを見て、付け足したいカード、削除したいカードがあれば、班内で検討して、追加もしくは削除する。
 - (4) カードを仲間(テーマ)ごとにグループ分けをする。仲間ごとのカードをピックアップして、新しい模造紙に貼っていき、それらを囲んで名前を付ける。
 - (5) 班ごとに発表する。
 - (6) アンケート(ふり返し)



グループワークの結果(「読売巨人軍」班)



発表の様子(「くまちゃん」班)

「フリーダム」班

日頃から備えておく物

救急セット	命
食べ物	防空ずきん
飲み物	車いす
電池	ケイタイ電話
防寒着	かばん
ライト	時計
ラジオ	ボール
金	体力
気力	強じんな足腰

大切な物

飲み物
食べ物
命
野球道具
バレーボール
出口
テニス道具

危険な物

ガラス
刃物
電柱
山の近くの家
食器
タンス
火
本だな
電気製品
古い建物

大切な人 (心配な人)

友達
子ども
病人
家族
ペット
老人
好きな人
足腰の弱い人

災害の種類

津波
地震
土砂くずれ

助けてくれる人、物、動物

警察官
消防団
救助隊
若者
医者
救助犬
防波堤

避難できる場所

学校
お寺
山

削除カード

避難場所
避難場所

「外野の人たち」班

日頃からあった方がイイ物

- 毛布
- 着替え
- ラジオ
- 水
- 非常食
- 懐中電灯
- 灯
- ゴムボート
- ロープ
- 頭脳
- 筋肉
- 足腰の強さ
- 体力
- ドラえもん

危ない場所

- 海
- 山
- 古い建物
- 火
- 天井
- 高い建物
- ガラス
- タンス
- 家

大切な人

- 好きな人
- ペット
- 親
- 友達
- 家族
- 恋人

避難できる場所

- 学校
- 公民館
- 寺
- 避難場所
- 丈夫で高い所

逃げ遅れそうなる人

- お年寄り
- 病人
- 幼児

役立つ物

- テレビ
- 電気
- 医者
- 組み立て式トイレ
- お風呂
- 親せき・いとこ
- 救急隊
- 電話
- 金
- 近所の人
- ケイタイ
- 自分
- 気力
- 役場職員

削除カード

- 弟
- 愛犬
- 野球道具
- トランプ

「くまちゃん」班

被害に
あいやすい人

- お年寄り
- 小さい子供
- ケガ人
- 病人

削除カード

- 包帯
- 寝る場所
- ケイタイ電話

危険な場所

- 木の家
- 崩れやすい山
- 細い道
- 港の近くの家
- コンビニ
- 家のドア
- レンガの家
- 中学校裏の
がけ

危険なもの

- 重いもの
- 地われ
- 窓ガラス
- 本
- ガンリン
- 食器だな
- 高い所の物
- 本だな
- 蛍光灯のガラス
- 川の増水
- タンス
- 津波
- 火事
- ガスボンベ
- 家電製品の
コード
- テレビ
- 危険な薬品

日頃から
備えておく物

- | | |
|----------|--------------|
| 命 | 保存食 |
| 服 | 防寒着 |
| くつ下 | マッチ |
| 水筒 | 懐中電灯 |
| テレビ | ライター |
| 先祖の位牌 | 時計 |
| くつ | 大きな音の
出る物 |
| 電話 | 何かの入れ物 |
| 食器 | 薬 |
| 金(財産) | 救急箱 |
| ふとん | |
| 食料 | |
| ラジオ | |
| 電池(アルカリ) | |
| タオル | |
| 水 | |

安全な場所

- 避難場所
- 寺・神社
(高いところ)
- 役場の2階以上

大切な人や
役立つ人

- 家族
- 好きな人
- 友達
- 自分
- ペット
- 医者
- 自分の足
- 動物の6感
- 声
- 生命力
- 自分の頭
- 若者

「個人軍」班

危険なもの

- ブロック塀
- 高い建物
- 標識・看板
- 電信柱
- 東京タワー
- 石像
- 大きい木
- ガラス
- 大きい本

危険な人

- 体が不自由な人
- 足腰が弱い人
- 子供
- 運の悪い人
- 寝ている人

何よりも必要なもの

- 友達
- 家族
- ペット

地震で起こる事

- 火事
- 津波
- 土砂くずれ

大切な物

- 水
- 懐中電灯
- 避難バッグ
- 保存食
- 通帳
- お金
- はんこ
- くつ
- 防災ずきん
- 毛布
- 救急箱
- 体力

助けてくれる人

- レスキュー隊
- 医者
- 避難場所
- 体育館

情報

- ラジオ
- 新聞
- テレビ
- 放送

びみょうなもの

- ラップ
- かさ
- 時計
- 身分証明書
- 服
- 衣類

危険だけど必要な物

- ガス
- 電線

- 食器
- 車？

- 自転車？
- 電気

- ヘリコプター
- 水道

危険な場所

- せまい路地
- がけ
- 高い所にある物

- 川
- 古い建物

削除カード

- 命
- 懐中電灯

「サラランラップ」班

日頃から
備えておく物

- テント
- 水
- 自転車
- 笛
- 薬品
- お金
- ガンダム
- ライト
- ラジオ
- 食べ物
- ライター(火)
- 毛布
- ふくろ
- 衣類
- サラランラップ
- 電池
- スリッパ(くつ)
- 防災ずきん
- ナイフ
- くつ下
- 避難地図
- 紙
- ケイタイ電話

安全な場所

- 自動車
- トイレ
- 学校
- 高い所

情報収集

- ラジオ
- テレビ
- 新聞
- 人

被害に
あいやすい人

- 子供
- 病人
- 海にいる人
- 病院の人
- 老人
- 駅にいる人
- 老人ホーム
- 保育園

大切な人

- 家族
- 老人の知恵
- 友達
- 好きな人

助けてくれる人

- 先生
- 力持ちの人
- 男の人
- 消防団
- 若者
- 警察

災害の種類

- 火事
- 津波
- 地震
- 山くずれ

避難場所

- 高い場所
- 海の見えない場所

その他

- 光
- 船
- ローソン
- 海の水

危険な場所

- ガラス
- 海の近くの家
- がけ
- 古い建物
- 山の近くの家
- 古い木造
- ブロック塀
- ガソリンスタンド
- タンス
- 橋
- 線路
- ガス
- 屋根の瓦
- 電柱
- 銅像

削除カード

- スーパーマン
- 命
- 体
- ペット

「読売巨人軍」班

危険な場所

- がけ地帯
- 海
- 病院
- 地下鉄
- 線路近く
- 電線
- 学校
- ブロック塀
- 鉄橋
- 木造の家
- 住宅地
- 橋

避難できる場所

- 安全地帯
- 避難所
- 人が集まる所
- 学校
- 公民館
- 寺
- 自衛隊
- 被害が少ない場所

危険な人

- 船に乗っている人
- 車で逃げた人
- 不審者
- 危険人物
- 海に近い人
- 土地の高い所にいる人
- 山に近い人
- 体が不自由な人

助けてくれる人

- 若者
- スーパーマン
- 救急車
- レスキュー隊

ひまつぶしになる物

- おもちゃ
- 鉄道模型
- 勉強道具
- お宝
- MDプレーヤー
- ゲーム

危険な物

- 大きい家具
- 電気
- 古い家
- 火
- ガラス
- 包丁・のこぎり
- コンセント
- ねこ車

なくさめになる物

- 本
- 台所
- お風呂
- 卒業アルバム

避難に必要なもの

- 光
- 電気
- 工具など
- バーナー
- 気力
- 方位磁針
- タオル
- くつ下
- 防災ずきん
- ふろ敷
- 車
- ヘルコプター
- くつ
- ブザー
- 自転車
- バッグ

避難してから必要なもの

- 新聞
- スーパー
- ライター・マッチ・ろうそく
- 薬(医者)
- 金品
- ふとん
- 金
- ハンソコー
- プレハブ
- ラジオ
- トイレ
- ハンゴウ
- テント
- 時計
- サイフ
- 着替え

大切な人

- 好きな人
- お年寄り
- 家族
- 金魚
- ペット
- 友達
- バレーを一緒にしてくれる人

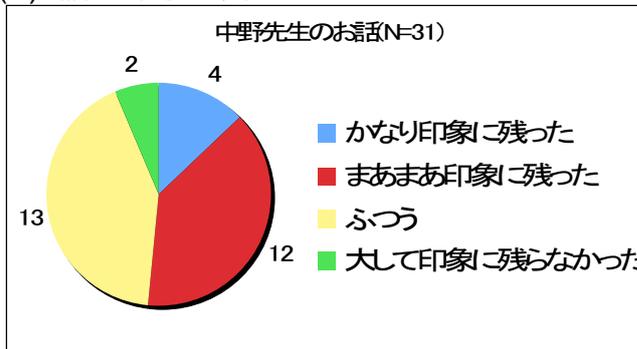
削除カード

- 食料
- 海岸
- 食料
- タオル
- ローソン

アンケート結果(地震津波のメカニズムを知り、防災対策を考える)

1. 徳島大学 中野先生のお話について

(1) 話は印象に残りましたか？



(2) 何が最も印象に残りましたか？

- ・由岐に来る津波の高さとか、地震の震度などがよく分かって、印象に残った。
 - ・津波と中継の映像が面白かった。
 - ・南海地震の前に直下型の地震が来るということ。
 - ・南海地震発生後、約10分ぐらいで由岐に津波が来るということ。
- などなど

2. グループワークについて

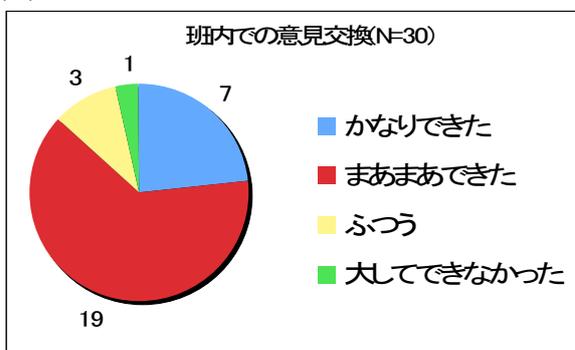
(1) グループワークは楽しかったですか？



(2) 何が楽しかったですか？

- ・みんなで楽しく話し合ったこと。
 - ・みんなと意見を出し合って仲良くできた。
 - ・活発に意見が出て楽しかった。
- などなど

(3) 活発に意見交換できましたか？



(4) 災害時の対策で何が必要ですか？

- ・津波の避難
 - ・救急セット、食べ物
 - ・水、食料、命、ラジオ、懐中電灯
 - ・逃げる道の対策、お金の用意
 - ・家を頑丈にする
 - ・病院の人や体の不自由な人の対策
 - ・日頃からの心構え、非常セットの準備
 - ・体を鍛えておく
- などなど

3. 自由回答

- ・中野先生の話がすごく良かった。映像もあって分かりやすかった。
 - ・徳島大学の先生が来たのはびっくりした。
 - ・先生の話聞くのも勉強になるけど、私はグループワークが楽しいし、みんなと意見交換できていい。これからもグループワークをしてほしい。
 - ・この総合学習は自分のためになると思った。
 - ・地震の映像を観るとぞぞーっとしました。やっぱり地震は怖いと思います。津波も怖かったです。
 - ・地震で逃げる時に早く行かないとどうなるかが分かった。だから早く逃げようと思った。
 - ・中野先生の話はこれからの役に立つと思うので、大変良かったと思います。
- などなど

2-6 地域を調べる(地域の防災マップをつくろう)

目的

前回のグループワークでは、災害時の危険な場所や安全な場所等が生徒達自身によって見つけ出された。今回は実際に地域に出てそれらを見つ、見つけたものをマッピングして、地域の防災マップをつくる。そして生徒達自身はこの作業を通して、地域の防災対策に関心を持つことを目的とする。



防災探検の様子「外野の人たち」班

流れ

1. 防災探検(1日目)

(1) 各班の担当地域を決める。

志和岐：「フリーダム」班	東由岐：「外野の人たち」班
西の地：「サランラップ」班	西由岐：「くまちゃん」班
田井：「個人軍」班	木岐：「読売巨人軍」班

(2) 各地域に移動する。

東由岐、西の地、西由岐：徒歩 志和岐、田井、木岐：自動車

(3) 地域内の危険な場所や安全な場所などを探して地図に書き入れ、デジカメで写真を撮る。

2. 防災マップづくり(2日目)

(1) あらかじめ各班が撮った写真をプリントアウトしておく。

(2) 各班に分かれて、防災探検で調べてきたことや写真を大判の地図に記載する。

「防災マップ作成の極意」を参考にして、班の中で協力して作成させる。

防災探検のポイント(5/20のグループワークの結果から)

- ・避難できる場所：学校、お寺、山、公民館、丈夫で高い所など
- ・危険な場所：がけ、ガソリンスタンド、狭い路地、川など
- ・危険な物：倒れそうな電柱、津波で流される物、ガスボンベ、ブロック塀、看板、標識、ガラスなど
- ・危険な建物：古い建物、橋など

生徒達に気づかせるポイント

- ・地震について：地震が発生すれば、どこが危険だろうか？
- ・津波について：津波避難場所はどこ？
- ・避難の時に障害になる物は？
- ・津波で流される危険な物は？
- ・津波から避難した後について

自宅に住めなくなっていたら、どこで避難生活を送ればいだろうか？

行政に対して、仮設住宅をどこに建てて欲しいか？

あらかじめ、由岐町津波避難マップを各班ごとに1枚ずつ配付する。

防災地図作成に関する○秘極意

防災地図に関する事項

- 一、まずは津波浸水予測区域を書くべし
- 一、その時、下書きを急るべからず
- 一、写真と注釈の配置を仮り決めするべし
- 一、注釈は色を使い分けるべし

イエロー：安全な場所

グリーン：危険な場所や物

ブルー：その他

- 一、配置が決まれば、丁寧に貼るべし
- 一、「安全な場所」や、「危険な場所や物」を地図に書くべし
- 一、写真と地図の場所とを矢印で結ぶべし
- 一、最後に、地図の名前「○○地区防災マップ」

とチーム名、並びにメンバーを書くべし

その他の事項

- 一、グループ内で互いに協力すべし
- 一、互いの意見を認め合うべし
- 一、ふざけるべからず

注意

その他の事項は、平常時だけに限らず、いざ災害時に極めて重要なこと故、心しておくべし。

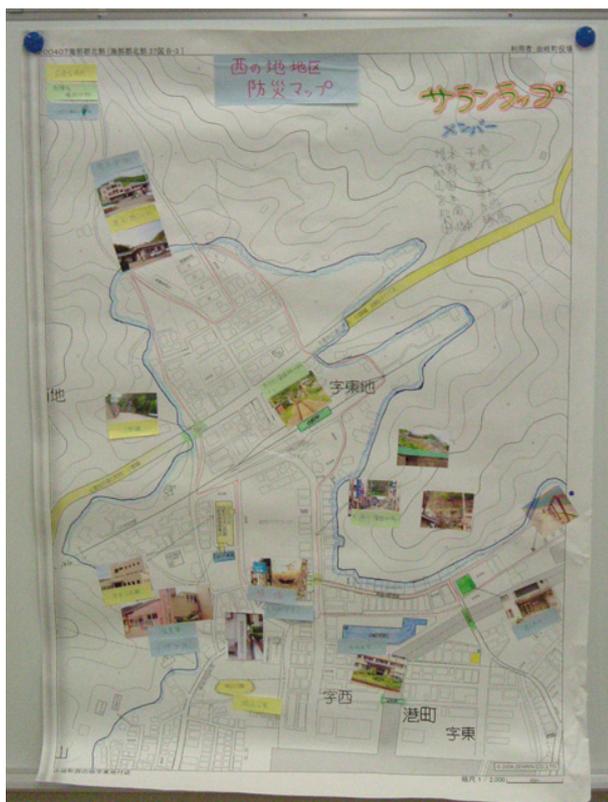
以上



志和岐地区：「フリーダム」班



東由岐地区：「外野の人たち」班



西の地地区：「サランラップ」班



西由岐地区：「くまちゃん」班



田井地区：「個人軍」班



木岐地区：「読売巨人軍」班

2-7 防災と福祉の関係を知る

目 的

5月20日のグループワークにおいて、生徒達から災害時に心配な人として、高齢者などのカードが出てきた。しかし現段階で生徒達は、「災害時に如何にして自分が助かるか」に関心が向けられている。また対策にしても、ハード的なものに偏りがちになっている。今回は災害ボランティアの話や災害時要援護者の擬似体験を行うことで災害から周りの人を守ることや、生徒自身が被災した時のこと、さらには防災と福祉のつながりの重要性について認識することを目的とする。

流 れ

- 1．災害ボランティアの話（徳島市社会福祉協議会 福本誠司氏）
 - (1) 福本氏と浜との会話のやり取りを聴く。
 - (2) 話の流れ
 - ・社協とは
 - ・災害ボランティアとは
 - ・台風23号での徳島市災害Voセンター
 - ・災害ボランティア体験談
 - ・ボランティアの重要性
- 2．災害時要援護者体験
 - (1) 6班に分かれて、シニア体験セットによる体験の班を2班、車いすによる体験の班を2班、担架による体験を2班とする。
 - (2) 班の中で、1名を災害時要援護者役として上記の物品を使用する。
他の者は避難支援者役となる。
 - (3) 津波からの避難を想定して、校舎の1階から2階まで、班で協力し合って避難する。
この時、くれぐれも事故が起こらないように気をつける。
 - (4) 時間があれば、災害時要援護者役や、物品を替えて避難を行う。
- 3．旗揚げ式アンケート
 - (1) 教室に戻り、今回の体験について旗揚げ式のアンケートを行う。
このときのコーディネーターは福本氏と浜で行う。
 - (2) 最後に福本氏に講評を行なって頂く。
 - (3) アンケート（ふり返り）



災害ボランティアの話



中越地震での災害ボランティアの様子
(写真提供:徳島市社会福祉協議会)



車いすによる避難体験の様子
「くまちゃん」班



担架による避難体験の様子
「個人軍」班



高齢者疑似避難体験の様子

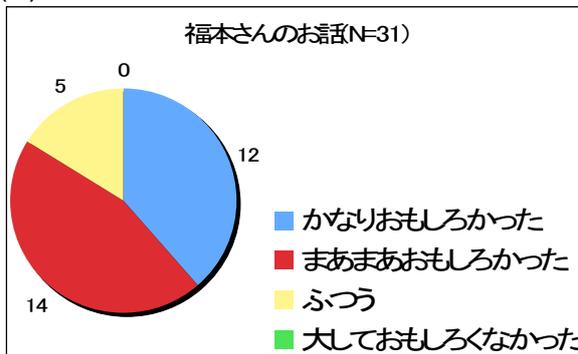


旗揚げ式アンケートの様子

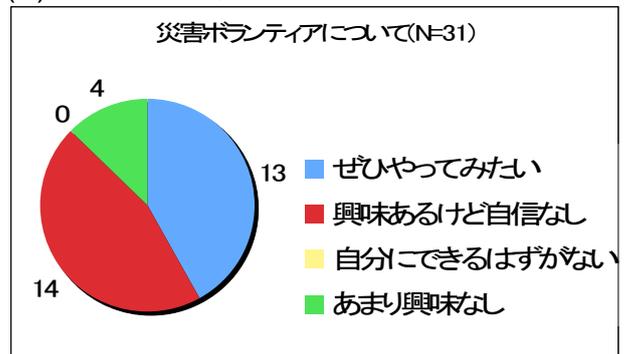
アンケート結果(防災と福祉の関係を考える)

1. 徳島市社会福祉協議会 福本さんのお話について

(1) 話はおもしろかったですか？



(2) 災害ボランティアについてどう思いますか？

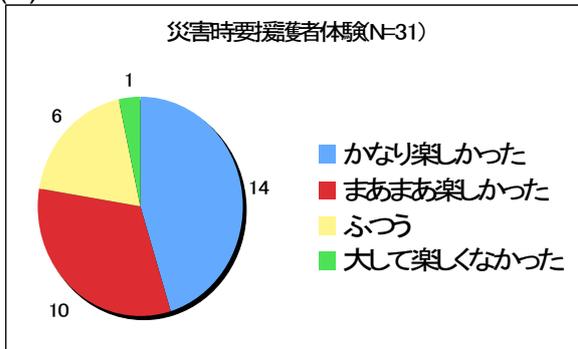


(3) 何が最も印象に残りましたか？

- ・雨だけですごいことになるのが印象に残った。
- ・人と人とのつながりは大切なんだと思った。
- ・ボランティアで人と人が信頼できるようになったこと。
- ・人と人との絆の大切さ。
- ・災害で被害を受けた人との交流(しょうゆとソースの話)。
- ・20日間も泊まり込みでお手伝いしていた人の話がすごく印象に残っています。
- ・ある頑固なおじいさんとの感動的な話。

2. 災害時要援護者対策について

(1) 楽しかったですか？



(2) 何が楽しかったですか？

- ・車いすに乗って移動
- ・お年寄りの体験や車いすの操作など
- ・普段、私達が何も考えずに上がっている階段が、車いすの人にとっては、すごい怖いことが分かった。
- ・お年寄りの体験ができたのが楽しかった。
- ・お年寄りの体験は腰が痛かった。
などなど

3. 災害時要援護者対策で何が重要だと思いましたか？

- ・普段からの人のつながりに加えて、信頼
- ・近所の人と仲良しになる。
- ・普段からの人のつながり、やさしさ、助け合い
- ・普段から人と話すこと、親しくなること
- ・近所の人、地域の人とのつながりは大切だと思った。
- ・自分の気持ち
- ・避難訓練をする。
- ・もっと近所の人を知るといこと

などなど

2-8 地域の人々の災害体験や防災対策を調べる(災害防災インタビュー)

目的

生徒達が地域住民の方々に防災に関するインタビューを行うことで、実際に住んでいる人々がどんな経験をし、何を考えているのかを知る。この作業を通じて、生徒達が地域に対する関心を持つことを目的とする。

またインタビューの内容を各班ごとにまとめて、全員の前で分かりやすく発表することにより、プレゼンテーション能力を養う。

流れ

1. 災害防災インタビュー(1日目)

- (1) 6班に分かれる。
- (2) 災害防災インタビューの説明を行う。
- (3) 各地域に分かれてインタビューを行う。
まちの人の思い出、体験を聞く。
 - ・お年寄りの声を聞く(体験、聞いた話など)【イエローカード】
 - ・働く人の声を聞く(お年寄りから聞いた話や災害の思い出など)【ピンクカード】
 今、地震が起こったら?と聞く【ブルーカード】
 - ・心配な人はいるか?
 - ・どこに逃げるか?
 - ・助けなければならない人は近くにいますか?
 - ・危険な場所は?
 その他【茶色カード】
 - ・話の中で興味を持ったことについて詳しく聞く。

2. まとめとプレゼンテーション(2日目)

- (1) あらかじめ、各班が災害防災インタビューで撮ってきた写真を印刷しておく。
- (2) 各班ごとに、災害防災インタビューで聴いてきたことや教訓などを模造紙にまとめる。
- (3) 生徒一人の持ち点を3点とし(緑色のシール3個)、先生方の持ち点を5点(青色のシール5個)として、まとめた災害防災インタビューと防災マップを評価し合う(ただしこの時、自分の班に得点を入れてはいけない)。
- (4) 各班ごとにプレゼンテーションの内容を考える。
- (5) 生徒と先生全員に持ち点1点ずつを配る(赤色のシール)。
- (6) 各班ごとに災害防災インタビューと防災マップについてプレゼンテーションを行う。
- (7) 生徒及び先生は、プレゼンテーションの最も良いと思われる班に得点を入れる(この時も、自分の班に得点を入れてはいけない)。
- (8) 最も得点の高かった班にはベストプレゼンテーション賞として、ヒミツのURLをプレゼントする。

4種類のインタビュー・カード



インタビューしよう!!

防災インタビュー

ここで、いろいろな地震に関する授業を行いました。では、実際に住んでいる人はどんなことを経験し、考えているのでしょうか？

今日の授業では、学校の外へ出て、皆さんにインタビューをしてもらいます。

用意するもの

- かんづき
- メモ帳
- 地図
- 筆
- 筆記用具
- マイク
- スマイル (0円)

①. 授業の流れ

13:25 [集合、授業内容説明]
 13:35 調査開始です!
 ※3人以上に話を聞くべし
 15:00 学校へ着くべし。

②. 班の役割分担

1. カード記入係 (2人まで可)
→ スケッチ等をEで採らしよう!
2. カメラマン
→ 話をしてくれた人の写真、話の中で出てきた場所をとりよ
3. 地図記入者
→ どこで話していたか、話で出てきた場所を記入しよう
4. インタビューする人 x2
→ スマイルを忘れずに、いろんな話を聞こう。

③. インタビューの干渉

0. 相手に「地震、津波についてインタビューしたい」と伝える
1. 名前、甲斐名を聞く
2. インタビューする人の写真をとる
3. 地図にインタビューした場所を記入
4. カード記入開始 (4行参考)

①. は、より詳しくしよう
 ②. 相手の目を見て話そう
 ③. スマホを忘れない
 ④. カード1枚に1つの内容を書こう。

④. まちの人の思い出、体験をきこう

○じいばばの声をきこう
 ・体験
 ・聞いた話

○働く人の声をきこう
 ・おじいちゃん、おばあちゃんから聞いた話、
 ・津波災害についての思い出。

⑤. 今、地震が起きたら? と聞いてみよう

- ・心配な人はいるか?
- ・どこに逃げますか?
- ・逃げなければならぬ人は近くにいますか?
- ・危険な場所はどこ?

⑥. インタビューを聞いて、わかったことを(教訓)に記入しよう

「災害は怖い。」

カード記入のしかた

05/07/01/

●茶色カード



志和岐地区：「フリーダム」班



東由岐地区：「外野の人たち」班



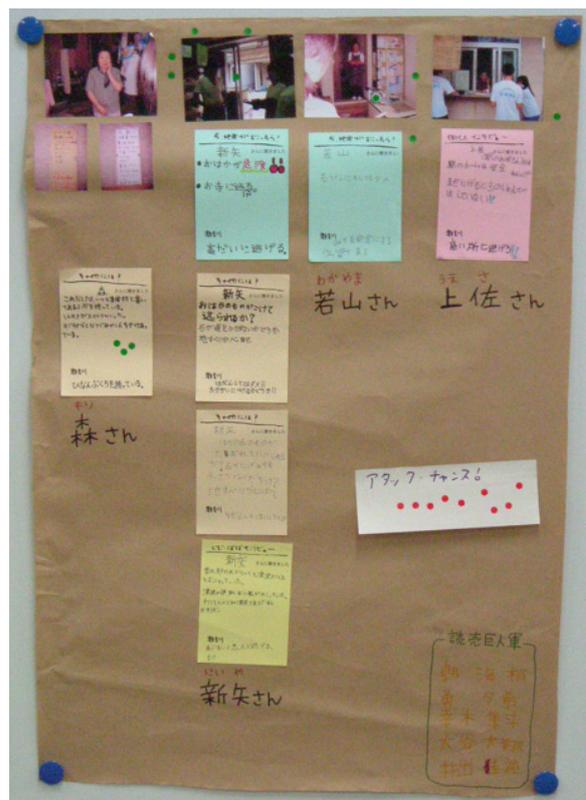
西の地地区：「サランラップ」班



西由岐地区：「くまちゃん」班



田井地区：「個人軍」班



木岐地区：「読売巨人軍」班



災害防災インタビューの様子
「個人軍」班



災害防災インタビューの様子
「読売巨人軍」班



評価の様子

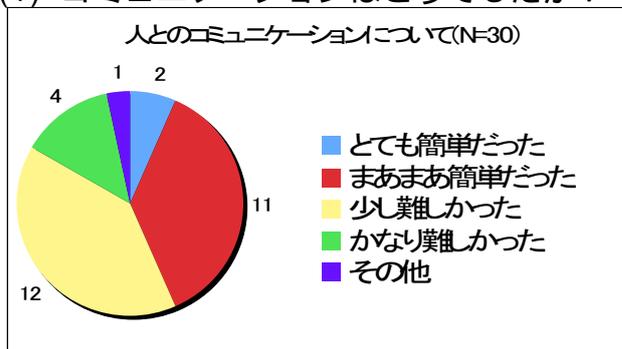


プレゼンテーションの様子
「読売巨人軍」班

アンケート結果(災害防災インタビュー)

1. 災害防災インタビューについて

(1) コミュニケーションはどうでしたか？



(2) (1)の理由

・地域の人がすごく気安くしゃべってくれたから。

- ・知っている人ばかりだった。
- ・知らない人ばかりだったから。
- ・メモを書くのが忙しかった。
- ・お年寄りの人は耳が遠かった。
- ・緊張してなかなかしゃべれなかった。
- ・普段あまり人と話さないから。

などなど

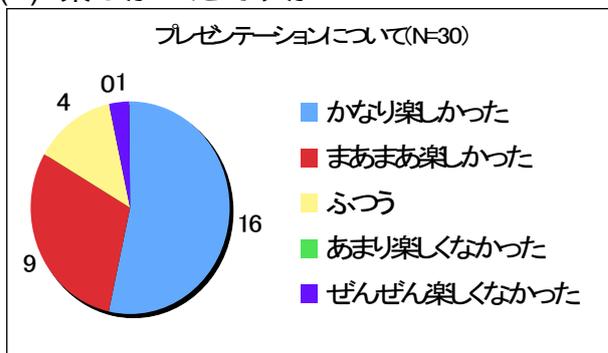
(3) 最も印象に残った教訓は何ですか？

- ・とにかく早く逃げる。
- ・木を植える。着替えを用意する。大切な人と一緒に逃げる。
- ・山本さんの「お年寄りはお助けなあかんあ」に感動した。
- ・とにかくもどらずに、早く逃げるのが大事。
- ・これからの日本を動かすのは君たちだ。
- ・道を安全にする必要がある。
- ・もう何をしてもダメ。高い所に逃げる。

などなど

2. プレゼンテーションについて

(1) 楽しかったですか？



(2) まとめ方で気に入った点は何ですか？

・マップのまとめ方がきれいだった。

・よく書いていた。大藤さんの所で津波がどの辺りまで来るか、というのがおもしろかった。

- ・きれいにまとめていた。見習いたい。
- ・どの班もインタビューの内容が個性的でおもしろかった。

などなど

3. プレゼンテーションで気に入った点は何ですか？

- ・劇の形で発表していたので、分かりやすかった。
- ・すごく分かりやすくて良かった。
- ・ものまねがうまかった。
- ・宮本君のシャレが最高だった。
- ・あるある探検隊のマネはすべったけど、すべったところが良かった。

などなど

第3章 考える・つくる・広める



3-1 2学期、3学期の取り組み

2学期は1学期に学習した内容を引き継ぎながら、防災カレンダーづくりを実施した。具体的にはカレンダーの素材づくり、標語づくり、災害発生日の調査などである。これらの作業を通じて生徒が防災だけでなく、モノを作る楽しさや協同で作業を行う楽しさ、難しさなどを実感し、様々なことに興味を持てるように努めた。また「未来予想図～災害復興会議～」では、防災対策を復興対策から考えることで、未来へ繋がる提案づくりを実施した。

3学期は完成した防災カレンダーを地域に広めることで、地域と関わり、地域の防災意識の高揚に努めた。

2学期と3学期のカリキュラム

9月30日	「防災カレンダーづくり (1～6月まで)」
10月14日	「防災カレンダーづくり (防災標語)」
10月21日、11月4日	「防災カレンダーづくり (今日は何の日フッフ～)」
11月11日	「未来予想図 ～災害復興会議～」
11月18日	「防災カレンダーづくり - 1 (7～12月まで)」
11月21日	【特別授業】「公開取材」
11月25日、12月9日	「防災カレンダーづくり - 2 (7～12月まで)」
1月13日、20日	「お世話になったあの人に防災カレンダーをわたそう」
2月24日	「防災学習をふり返って」(予定)

3-2 防災カレンダーづくり①「1～6月まで」

目的

1学期の学習内容の中から、防災カレンダーの1月から6月までの素材をつくる。この作業を通じて1学期の学習をふり返る。さらにビジュアルを使って人に伝えることの楽しさや、モノを作る楽しさを知ることが目的とする（防災から出発して、様々な事柄に対する興味を持つ）。

流れ



廣澤氏の講演の様子

1．カレンダーづくりの極意（ほっとこうち編集部 廣澤靖子氏）

(1) 廣澤氏が作成した赤岡暦について話して頂くことで、カレンダーづくりの基本を知る。

2．カレンダーの基本形について考える

(1) 模造紙を1月のカレンダーに見立てて、カレンダーの構成を生徒達と考える。

カレンダーの構成：素材(絵や写真)、日付、「災害発生日」、
防災標語、メンバー氏名、表紙など

カレンダーの単位：1月、2月、6カ月、1年

各班の仕事：各班(6班)が2カ月分の素材を作成(例えば1月と7月)

1つは今までの授業で習ったこと(教訓)、人に伝えたいこと

1つは、提案内容(後日作成する)

先生の仕事：表紙の作成、日付の作成

(2) 1～6月までのカレンダーに関する素材を検討する。

今までの授業の流れを示して、何が教訓になったか、何を地域の人に伝えたいか、発表する。

ex. 災害時要援護者対策、心肺蘇生、日頃から備えておくもの、

防災・災害インタビュー(先人から学べ)、地域を知ろう(防災マップ)、
災害の恐ろしさを知るetc.

(3) 出てきた項目をカードに書く(6枚作成)。

(4) 各班の代表者はカードを引いて、班のテーマとする。

各班にテーマに合った写真集(授業の時の写真：CD)を渡す。

3．素材選定及び表題作成

(1) 各班でパソコンを用いて写真集を見、使える写真を選定する。

(2) 写真が決まったら、それに付ける教訓を考え、筆ペンで紙に書く。

(3) 班ごとに発表する。

「外野の人たち」班

テーマ：日頃から備えておく物



選んだ素材：非常持ち出し袋など

備えあれば
憂いなし

「くまちゃん」班

テーマ：災害を語り継ぐ



選んだ素材：災害防災インタビュー、人を助けた木

一番は
お金じゃない
命だ

「フリーダム」班

テーマ：災害時要援護者対策



選んだ素材：車いすによる避難

みんなで協力し合い
生きのびよう

「サランラップ」班

テーマ：南海地震が起これば由岐町はこうなる



選んだ素材：被災直後の絵



「読売巨人軍」班

テーマ：防災訓練



選んだ素材：心肺蘇生講習

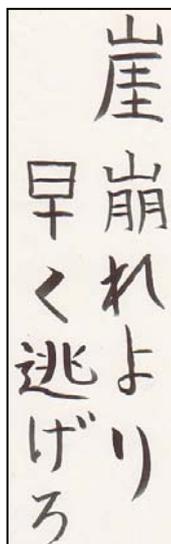


「個人軍」班

テーマ：地域を知ろう



選んだ素材：田井の崩れそうな崖



3-3 防災カレンダーづくり②「防災標語」

目的

カレンダーに掲載する防災標語を全員で考えることにより、防災に関する教訓などを共通認識する。また、標語づくりを通して国語力のアップも目的とする。

流れ

1. 防災標語の作成

- (1) 事前に教室の中に防災標語を吊すためのロープを渡しておく。
- (2) 学習の流れについて説明する。
- (3) 防災標語に使うキーワードを出し合う。
- (4) 生徒に、1人1枚の短冊とペンを配る。
- (5) 各個人で標語を考え、標語ができた人は教師のところへ提出する。

教師はできた標語をロープにくくり付けていく（場合によっては、早く標語ができた生徒にも手伝ってもらう）。

生徒は最低1個の標語を作る。

時間に余裕のある生徒は、複数の標語を考える。

2. 防災標語の評価

- (1) 採点方法について説明する。
手上げの投票方式で、1人3回まで手を挙げるができる。
- (2) 教師は、生徒達の作った標語を順番に読み上げていく。
生徒達は、どれに投票するかを決める。
- (3) 教師は順番に標語を読み上げ、生徒は手上げ方式で投票する。教師は付せんに得点を書き込み、標語に貼っていく。
高得点の12点を優秀作品とし、カレンダーに使用することとする。



防災標語を考える様子



飾られた防災標語の数々

防災標語最優秀作品

津波が来たら どちらを選ぶ 命か金
 「助かる!!」気持ちを大切に
 日頃から 考えていよう 地震のことを
 「またあとで」なんて言わずに 備えよう
 守り合い 支え合うこそ 友情の輪
 分かっているようで 分かっていない 災害の怖さ
 走って逃げろ 死んでたまるか
 今から深める 近所の仲
 てやんでえ 地震に負けるか べらぼうめ
 金なんて 命にくらべりゃ 安いもの
 身近にある危険 高めよう 防災意識
 いつ来るの 今かもしれない その時が

幸 木 隼 斗
 土 内 彩
 筋 野 里 佳
 井 出 圭 祐
 山 田 真 子
 勇 夕 希
 筋 野 里 佳
 勇 夕 希
 森 本 貴 之
 井 出 圭 祐
 中 林 可奈子
 猪 谷 奈 美

防災標語優秀作品

みんなの命を守る 避難場所
 全員で 助けあえれば 頑張れる
 確認しよう 避難場所
 大切な物より 大切な命
 地震が来たら 落とせブレーカー
 地震が来れば 全力疾走 津波が来る!!
 今から集める 防災グッズ
 これからは 高めていこう 防災意識
 地震が来たら 後もどりしない
 鍛えとけ 何よりも速く 走りきれ
 地震が来たら 助け合え!!
 お金より 命が大切 はよ逃げろ
 災害はいつ来るか分からんぞ 用心しいよお
 道具なんて何もいらぬ いるのは命だけ
 何よりも大切な命
 みんなの命は みんなで守ろう!!
 津波が来たら 何も持たずに すぐ逃げろ!
 忘れないで 災害の恐ろしさ
 災害は みんなの命を 奪うもの
 一人でも 多くの人を 助けよう
 気をつけて いつか来るんだ その時が
 備えよう 恐怖の地震が来る前に

松 本 玲 奈
 別 宮 隆 利
 松 田 恵利奈
 喜和田 舞
 井 出 圭 祐
 土 内 彩
 勇 夕 希
 大 谷 大 翔
 森 歌奈子
 海 司 幸 治
 松 田 秀 弥
 別 宮 啓 太
 幸 木 隼 斗
 大 谷 刻
 平 井 孝 明
 松 本 玲 奈
 粟 田 千妃呂
 和 田 天 音
 別 宮 千 捺
 朝 海 梢
 猪 谷 奈 美
 井 出 圭 祐

防災標語優秀作品

助け合おう 地震の時ぐらい いいじゃないか
 みんなで協力して 助け合う
 地震が来たら すぐに逃げろ
 今のうちに 用意しとこう 避難袋
 落ち着こう どんな時でも 何が起きても！
 さあ大変 地震が来れば すぐに逃げろ
 普段から 備えておこう 非常食
 地震が来たら早く逃げろ
 地震が来たらすぐに逃げろ
 地震起これば すぐ逃げろ
 はよ起きい 津波が来たでえい
 一家に一つ 避難袋
 お年寄りを助けよう。
 地震が起きたらすぐに逃げろ！
 気をぬくな 逃げる時は真剣に
 地震が来たら 机の下に もぐりこもう
 逃げる前 ガスの元栓 閉めやがれ
 ブレーカー すぐに落とせる癖つけろ！
 助け合い みんなで無事に生き延びよう！
 津波が来たら全力疾走 高台へ
 日頃から準備をしよう
 少しでも 被害を少なくするために普段から備えよう
 津波とは 5分で来るから 気をつけろ!!
 気をぬくな いつ地震が来てもいいように。
 崖崩れ 協力し合って 乗り越えよう
 地震が来ても冷静に
 津波が来たら 泳いで逃げろ
 いつかは起きる大災害 備えておこう地震対策
 あなたの行動がみんなを救う
 津波が来たら高台に!!
 こわい時こそ 好きな人を思い出せ
 大地震 ガッツと気合いで乗り越えろ
 みんなを助ける瞬発力!!
 どんな時も 希望を捨てるな 冷静に
 津波は来る前に逃げろ
 あきらめずに 走りぬけ
 助けよう 何より大事なその命。
 津波より速く走れ

由岐中 さゆり
 増 本 千 恵
 大 谷 刻
 濱 宮 香 澄
 猪 谷 奈 美
 山 田 栞
 別 宮 隆 利
 由岐中 太 士
 由岐中 琢 馬
 宮 本 啓 太
 幸 木 隼 斗
 別 宮 啓 太
 大 谷 刻
 和 田 天 音
 大 谷 大 翔
 別 宮 千 捺
 井 出 圭 祐
 井 出 圭 祐
 松 田 恵 利 奈
 由岐中 太 士
 大 谷 刻
 森 歌 奈 子
 井 出 圭 祐
 幸 木 隼 斗
 別 宮 千 捺
 別 宮 啓 太
 松 岡 秀 弥
 中 林 可 奈 子
 由岐中 さゆり
 幸 木 隼 斗
 勇 夕 希
 海 司 幸 治
 松 本 玲 奈
 別 宮 隆 利
 由岐中 太 士
 別 宮 啓 太
 井 出 圭 祐
 松 岡 秀 弥

防災標語優秀作品

さあ大変 津波が来れば すぐ逃げろ
 日頃から鍛えておけ 気力と体力
 今からでも遅くない 防災教育
 若者に助けてもらえ
 大好きな人を救う 知識と技能
 いつ起こるか分からない大地震
 ブレーカー 切らなきゃたちまち 大火事だ!!
 地震から愛する人を守りぬけ!!
 ニュータイプの「カン」で早く気づけ!!
 「大丈夫」 その一言が命とり。
 大地震 まだ僕たちは若いのに
 落ち着いて 一目でいいから まわりを見てよ
 そのダンス つっかえ棒で止めよう
 お年寄りを優先に

山 田 葉
 別 宮 隆 利
 森 歌 奈 子
 宮 本 啓 太
 別 宮 隆 利
 平 井 孝 明
 井 出 圭 祐
 松 本 玲 奈
 宮 本 啓 太
 井 出 圭 祐
 森 本 貴 之
 由 岐 中 さ ゆ り
 井 出 圭 祐
 大 谷 刻

3-4 防災カレンダーづくり③「今日は何の日フッフ〜♪」

目的

過去の災害を調べることで、災害から教訓を得る。
またビデオ学習を組み込むことで、災害の恐ろしさを再認識し、防災学習の原点に戻る。



DVD学習の様子

流れ

1. DVD学習「20世紀日本 大災害の記録」

- (1) 学習の流れについて説明する。
- (2) 各班長は、調べる月を決めるくじを引く。
(1,7月、2,8月、3,9月、4,10月、5,11月、6,12月)
引いたくじにより、班ごとに調べる担当月を決定する。
- (3) 続いて、主な災害名を書いた「災害チョイス・カード」を引く。
- (4) 1班から順に、災害チョイス・カードの中から、観たい災害を選択する。
- (5) 災害の日付を観て、担当月の班は、災害カードに災害名、災害の起こった日、災害の内容、及び気づいたことなどを記入する。

2. 調べ学習

- (1) 災害チョイス・カードは月ごとに災害をまとめているので、担当月の班にそのカードを渡す。
- (2) 生徒達は、班で協力し合って、最低限、そのカードに出ている災害の日付を調べる
(次回までの宿題とする。家族の人に手伝ってもらっても可。その方が家庭で防災の話をするだろうから)。

なお、1日目の授業終了後、防災に関するパンフレットや雑誌などを教室に置いておく。
その他調べる方法として書籍や町史、インターネットなどがあることを生徒達に教える。

3. まとめと発表

- (1) 班ごとにまとめた内容を模造紙に貼る。
- (2) 班ごとに発表し、先生方が評価する。

採点基準：調べた災害一つにつき、1点

先生1人の持ち点を5点とし、調べた内容や班内の協力状況などを基準にして得点を付ける。

過去の災害を調べる様子
「フリーダム」班

発表の様子「サランラップ」班

災害チョイス・カード

1, 7月

桜島大噴火
三河地震
伊豆半島近海地震
阪神淡路大震災

伊東沖海底噴火
北海道南西沖地震
三宅島噴火

2, 8月

北美濃地震
松代群発地震
有珠山噴火

3, 9月

秋田仙北地震
北丹後地震
三陸地震津波
桜島噴火
十勝沖地震
浦河沖地震
有珠山噴火

関東大震災
鳥取地震
明神礁大噴火
長野県西部地震

4, 10月

濃尾地震
御嶽山噴火
三宅島噴火
北海道東方沖地震
鳥取県西部地震

5, 11月

北但馬地震
チリ地震津波
十勝沖地震
伊豆半島沖地震
日本海中部地震

北伊豆地震
伊豆大島大噴火
雲仙普賢岳噴火

6, 12月

三陸地震津波
芸予地震
福井地震
阿蘇山噴火
十勝岳噴火
新潟地震
宮城県沖地震

東南海地震
南海地震

災害カード(調べた災害について記入するカード)

災 害 名	
起こった日	
災害の内容	
気づいたこと (教訓など)	

1, 7月(担当:「外野の人たち」班)



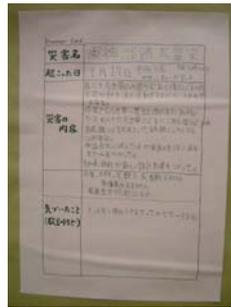
平成5年8月豪雨



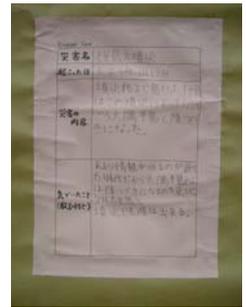
伊東沖海底噴火



伊豆半島近海地震



阪神淡路大震災



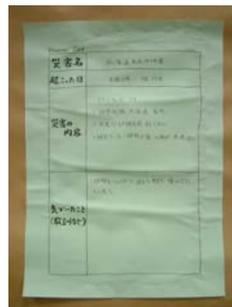
桜島大噴火



三河地震

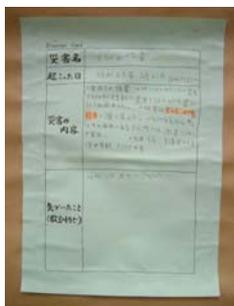


三宅島噴火



北海道南西沖地震

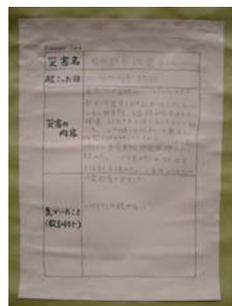
2, 8月(担当:「くまちゃん」班)



えびの地震



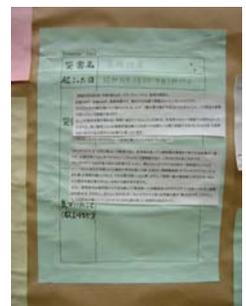
河内大和地震



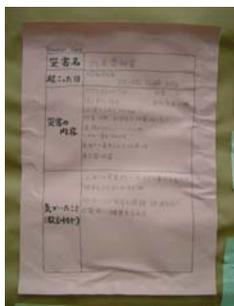
松代群発地震



平成5年台風13号



長岡地震



北美濃地震

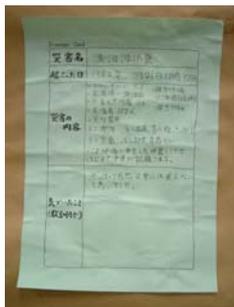


有珠山噴火



陸羽地震

3, 9月(担当:「フリーダム」班)



浦河沖地震



関東大震災



芸予地震



昭和21年桜島噴火



秋田仙北地震



平成15年十勝沖地震



昭和27年十勝沖地震



長野県西部地震



鳥取地震



北丹後地震

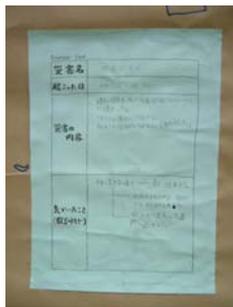


明神礁大噴火

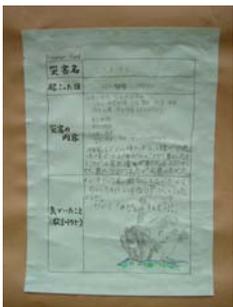


有珠山噴火

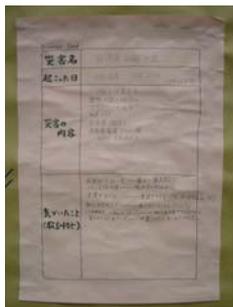
4, 10月(担当:「サララップ」班)



御嶽山噴火



三宅島噴火



新潟県中越地震



鳥取県西部地震

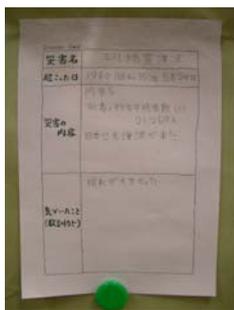


濃尾地震

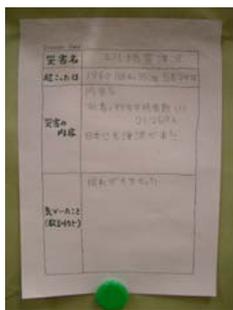


北海道東方沖地震

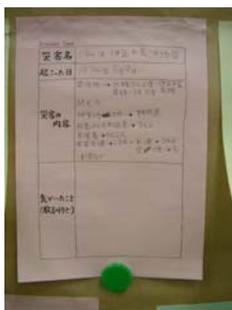
5, 11月(担当:「読売巨人軍」班)



チリ地震津波



伊豆大島大噴火



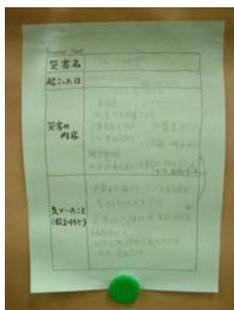
伊豆半島沖地震



雲仙普賢岳噴火



平成15年
宮城県沖地震



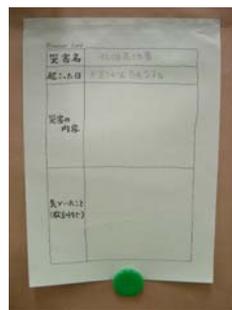
昭和43年十勝沖地震



日本海中部地震



北伊豆地震

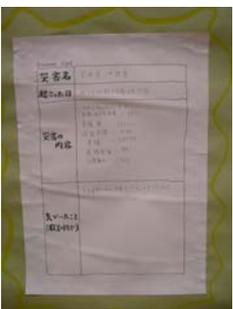


北但馬地震

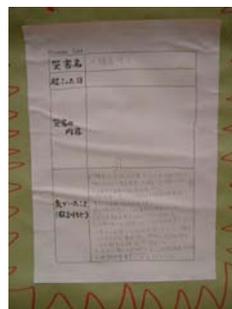
6, 12月(担当:「個人軍」班)



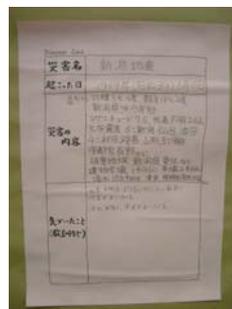
インドネシア・
スマトラ島沖地震



昭和53年
宮城県沖地震



十勝岳噴火



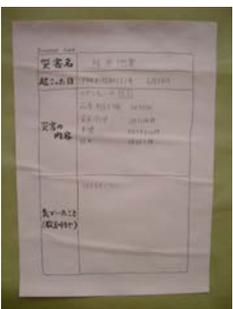
新潟地震



昭和19年東南海地震



昭和21年南海地震



福井地震



明治三陸地震津波

各班が調べた過去の災害

外野の人たち（担当月／1月、7月）

大正 3年 1月12日	桜島大噴火
昭和20年 1月13日	三河地震
昭和53年 1月14日	伊豆半島近海地震
平成 7年 1月17日	阪神淡路大震災
平成 元年 7月13日	伊東沖海底噴火
平成 5年 7月12日	北海道南西沖地震
平成 5年 7月31～8月7日	平成5年8月豪雨
平成12年 7月 8日	三宅島噴火

くまちゃん（担当月／2月、8月）

昭和11年 2月21日	河内大和地震
昭和36年 2月 2日	長岡地震
昭和43年 2月21日	えびの地震
明治29年 8月31日	陸羽地震
昭和36年 8月19日	北美濃地震
昭和40年 8月 3日～	松代群発地震
昭和52年 8月 7日	有珠山噴火
平成 5年 8月31～9月5日	台風13号

フリーダム（担当月／3月、9月）

大正 3年 3月15日	秋田仙北地震
昭和 2年 3月 7日	北丹後地震
昭和 8年 3月 3日	三陸地震津波
昭和21年 3月 9日	桜島噴火
昭和27年 3月 4日	十勝沖地震
昭和57年 3月21日	浦河沖地震
平成12年 3月31日	有珠山噴火
平成13年 3月24日	芸予地震
大正12年 9月 1日	関東大震災
昭和18年 9月10日	鳥取地震
昭和27年 9月17日	明神礁大噴火
昭和59年 9月14日	長野県西部地震
平成15年 9月26日	十勝沖地震

各班が調べた過去の災害

サララップ（担当月／4月、10月）

明治24年10月28日	濃尾地震
昭和54年10月28日	御嶽山噴火
昭和58年10月3日	三宅島噴火
平成6年10月4日	北海道東方沖地震
平成12年10月6日	鳥取県西部地震
平成16年10月23日	新潟県中越地震

読売巨人軍（担当月／5月、11月）

大正14年5月23日	北但馬地震
昭和35年5月24日	チリ地震津波
昭和43年5月16日	十勝沖地震
昭和49年5月9日	伊豆半島沖地震
昭和58年5月26日	日本海中部地震
平成15年5月26日	宮城県沖地震
昭和5年11月26日	北伊豆地震
昭和61年11月15日	伊豆大島大噴火
平成2年11月17日	雲仙普賢岳噴火

個人軍（担当月／6月、12月）

明治29年6月15日	三陸地震津波
明治38年6月2日	芸予地震
昭和23年6月28日	福井地震
昭和33年6月24日	阿蘇山噴火
昭和37年6月29日	十勝岳噴火
昭和39年6月16日	新潟地震
昭和53年6月12日	宮城県沖地震
昭和19年12月7日	東南海地震
昭和21年12月21日	南海地震
平成16年12月26日	インドネシア・スマトラ島沖地震

3-5 未来予想図 ～災害復興会議～

目的

由岐町が30年後に南海地震で被災したと仮定して、生徒自らが復興対策を考えることにより、由岐町の良い点や、災害に対する弱点などを再認識し、由岐町の防災対策はもとより、持続する由岐町の地域づくりを考える。



災害復興会議の様子

流れ

1. 未来予想図

- (1) 今から30年後の2035年を想像して「家族」、「住んでいる場所」、「仕事」、「由岐町のこと」について想像し、別紙用紙1に書く（ただしこの用紙は、個人個人の世界の中で大切にしたいので、回収はしない）。

2. 災害復興会議

- (1) 南海地震は今後30年以内に50%の確率で発生することにちなんで、2035年に南海地震が発生したと仮定し、その後、生徒達全員が復興会議に参加することとなったというストーリーのパワーポイントを見せる。
（2035年をイメージさせるため、説明の途中でハゲ頭のカツラをかぶる。）
- (2) 復興会議では、災害から由岐町を立ち上がらせるために、「どんな町にしたいか」、「その町になるためには、どんな対策が考えられるか」、「どんな効果が期待できるか」を、別紙用紙2に書く。
- (3) 生徒達が考えている途中、ヒントになるような助言を行う。
「どうすれば災害に強い町になるのか」、「由岐町らしさを残す方法は」、「悲しみから立ち上がるには」、「日常の大切さを再認識する」など

3. 防災カレンダーの校正（時間が余った場合）

- (1) 先日作成した1～6月までのカレンダーの校正を行う。
- (2) 修正したい箇所は、白紙などに新たに書いたり、修正方法を示す。



津波のイメージ(南海地震発生のストーリーより)



防災カレンダーの校正の様子

未来予想図

2005年 中学1年生（12-13才）



2035年 どうなっているかな（42-43才）

家族は…

どこに住んでいる？

仕事は…

由岐町はどんな町になっている？

用紙1(未来予想図で使用)

今後30年以内に50%の確率で発生するとされている南海地震

2035年 月 日 以前から心配していた南海地震がとうとう発生し、西日本を中心に大きな被害を受けた。もちろん、由岐町も例外ではなかった。

由岐町の被害

震度6強のゆれにより、家の中では家具が倒れたり、窓ガラスが割れたり、食器棚の中から食器が飛び出して割れたり、さらに古い木造住宅では倒壊する家が多数あった。

また、がけ崩れも町内のいたるところで発生し、土砂に押しつぶされる家もあった。道路も土砂崩れによって数カ所で寸断され、由岐町は孤立状態となってしまった。

さらに地震発生12分後、津波が発生。23分後には最大7mを超える津波が町を飲み込み、漁船やガレキが押し流され、住宅も大津波により破壊された。

地震から助かった人々は、津波を警戒してすぐに津波避難場所に避難した。しかし、家具や倒壊した家の下敷きになった人は、脱出することもできないまま、津波に飲まれた。避難の途中、家族を助けに行こうとした人もいたが、別の人に引き留められた。

この南海地震により、由岐町では200名を超える尊い命を失った。

地震発生から1週間は、外部からの支援が全く得られず、孤立した状態の町は凄惨な状況だった。水、食糧、衣料、医薬品などがすぐに底を尽き、本来ならば助かるはずの命でさえ、救えないこともあった。特に高齢者や障害者、乳幼児など、いわゆる災害時要援護者にとっては、長いつらい避難生活となった。

だが、地震発生から1週間を過ぎると、ようやく外部からの支援や物資が届き始めた。自衛隊だけでなく、災害ボランティアも大勢かけつけてくれ、みんなで復旧活動に汗を流した。中には海外のボランティアも含まれており、災害後、人の温かさに心から感動した。

南海地震から2カ月後、被災者全員が仮設住宅に移り住み、不便ではあるが、少しだけ生活が落ち着き始めた。しかし大切な人々を失った悲しみは全く消えていない。だが、それを引きずったままでは、亡くなった人々に対しても、これからの町を支える子供たちにも申し訳ない。そこで生き残った由岐町の人々は、「がんばろう由岐町！」を合い言葉に、由岐町を再び元気な町にするため、復興会議を立ち上げた。

なんとそのメンバーに、あなたを含め、ここにいる32名の同級生たちが加わることとなった！会議の場所は、地震や津波から被害をまぬがれた由岐中学校となり、当時、防災教育で使っていた由岐中学校1学年教室を使うことにした。

さあ、次の世代のために、由岐町の復興まちづくりを考えよう！

100年から150年周期で、再び襲ってくる南海地震から、次の世代を守るために…

南海地震発生のストーリー(パワーポイントと同時使用)

由岐町復興会議資料

・どのような「まちづくり」を目指すべきか
 例えば「〇〇な由岐町をつくろう！」

--	--	--

--	--	--

--	--	--

・どのような対策が考えられるか
 例えば、〇〇な□□対策

--	--	--

--	--	--

--	--	--

・期待できる効果は

--	--	--

--	--	--

--	--	--

防災面だけでなく、自然環境面、景観、由岐町が育んできた文化などにも気を配って、由岐町らしい復興計画を立てたいと考えています。（由岐町復興会議より）

用紙2(災害復興会議で使用)

災害復興会議の結果

第1回復興会議（ソフト対策）

日時:2035年11月11日
場所:由岐中学校1学年教室

どんな町を目指すべきか	どのような対策が考えられるか	期待できる効果	対策	対象者	キーワード
強気な由岐町をつくらう！	気持ちで負けない防災対策	人々の心身の強度が上がる	心身を鍛える	人々	気持ちで負けない
活発な由岐町をつくらう！	人々を強化する対策	日々の鍛錬、熟練	心身を鍛える対策	人々	
助け合い、笑い合える由岐町をつくらう！	一人ひとりが防災意識を持ち、行政も防災の活動をする	死者が減る	防災意識を持つ対策	町民一人ひとり	行政、死者減
みんなが協力して、より良い由岐町にしよう！	小学生や中学生に地震の怖さを知ってもらうために防災教育をする	地震や津波が来た時、すぐに行動できる	防災教育	小、中学生	的確に行動できる
自分たちの由岐町を自分たちで	お金や防災グッズを家の同じ場所に置いておく	大切な物を持ってすぐに危ない場所からぬけ出せられる	避難対策	各家庭	お金や防災グッズを同じ場所に
年寄りみんなが、ぼっぱと行動できるように	年寄りのポケ対策	今度どんなことが起きてもすぐに判断できるようにする	ポケ対策	お年寄り	的確に判断できる
週に1回歌を歌う会		少しでも元気が出るように	心のケア対策	町民？	元気が出るように
のんきな由岐町をつくらう	ほのぼのしたお茶会対策	おばあさん、おじいさんが安心して会話できる	心のケア対策	お年寄り	お茶会、安心して会話
理想的な由岐町をつくらう	元気の出る運動対策	行事を通じて防災意識を!!	運動対策	町民？	行事、防災意識
楽々な由岐町をつくらう	金がかからない防災対策	予算が余る	防災対策		金がかからない
昔的な由岐町をつくらう	のんびりした復旧対策		復旧対策		のんびりした
食べ物に困らない由岐町をつくらう	魚を釣って食糧を補給する	食糧をたくさん補給できる	食糧対策	町民？	釣り、たくさん補給
笑顔があふれる由岐町をつくらう!!	萌え系なアニメメディア対策	人々が元気になる、笑顔があふれる	心のケア対策	人々に	萌え系なアニメメディア
元気な由岐町をつくらう	みんなで助け合うためにふだんから話をしたり、あいさつをする		助け合い対策	みんな	普段から話、あいさつ
安心な由岐町をつくらう	元気が出るように、花を植えたりする		心のケア対策		花植え
	地下に食糧・医薬品などをたくわえる(各地区)	けが人、ききんを防ぐ	備蓄対策	各地区の住民？	地下に食糧・医薬品の備蓄
みんなで協力できるような由岐町をつくらう！	みんなでどこかに集まって会議をする「対策会議」	良い案が出たら、それを活用!!	対策を練る対策	みんな	集まって会議
地震が来た時に配給できるようにする	配給できるようにたのむ	お金がない人、食糧のない人のためになる	応援協定		配給をたのむ
防災意識の強い町	防災教育	少しでも亡くなる人が減る	防災教育		
元気な町	みんなで集まる	みんなでよく話して明るく過ごす。自然にほがらかくなる	心のケア対策	みんな	話す、ほがらかに
	災害支援列車	一気に支援物資を運べる	応援の受け入れ対策	支援物資	列車で一気に
助け合える町	災害が起こった時、生き残った人はやばそうな人を助けたら、食糧をもらえる	食糧がもらえるので、助けた人も得。助けられた人も生き残れる	共に助け合い対策、食糧対策	生き残った人、やばそうな人	助けたら、食糧をもらえる
逃げろっ由岐町MAN！	由岐町MANが幼児、老人、ケガ人を助ける。その人たちと一緒に逃げる。防災教育に励む。合い言葉は「みんなは一人のために、一人はみんなのために。」	みんなが助け合えば大丈夫だと思う。でも自分の命が一番なのでヤバくなったら・・・	救助対策	由岐町MAN	災害時要援護者を助ける
家族の仲がいい由岐町	老人を一人暮らしにすると逃げ遅れて死んでしまうから、なるべく老人を、息子とか娘の家族と一緒に住ませる	息子とかと一緒に逃げたら死ぬ確率が低くなると思う	災害時要援護者対策	一人暮らしのお年寄り	息子とか娘の家族と一緒に住む
一人ひとりが協力し合える由岐町をつくらう	孤独を防ぐ。たよっていける。たよれる。たよられる	住民一人ひとりが一つにまとまれる	共助対策	住民一人ひとり	たより、たよられ
幸せな由岐町!!	芸能人とかにビデオレターをもらえるようにお願いする。	やっぱり元気が出る。芸能人だったら特に(徳島県出身の芸能人はもつと良い。少ないと思うけど)	心のケア対策	芸能人	ビデオレターを依頼
支援だけにたよらない由岐町	食糧や水、衣服など、必要なモノを各家で用意しておく。医薬品なども用意しておく	支援が来るまでの間、生きていける。ケガをした人の治療もできる	備蓄対策	各家庭	食糧や水、衣服、医薬品など
体の不自由な人が暮らしやすい町にする	老人ホームには防災対策をする。隣近所で助け合えるようにする	お年寄りが少しでも多く避難できる	災害時要援護者対策	老人ホーム、隣近所	防災対策、助け合い
防災対策のある町に	防災意識を高める				防災意識を高める
あきらめない、くじけない、負けない由岐町をつくらう。	えりも岬の時みたいに、何年かかったとしてもあきらめず、もとの「由岐町の姿」にもどそうとすること。努力する。災害に負けないように考える。		復興全体	町民	あきらめない、復興する努力
元気で楽しい由岐町をつくらう	絶対みんな悲しみとか苦しさでいっぱいだから、みんなで集まって楽しい話とかして、元気を出す	町の人も仲良くなると思うし、お互いを分かち合える	心のケア対策	みんな	集まって楽しい話、元気を出す
災害とか事故とかを意識できる由岐町をつくらう	また、いつ地震とか津波が来るかわからないから、町の人みんながいつも意識して生活する。避難訓練を大切にしたり、お年寄りが楽に登れる坂とか高い所をつくる	次、地震とかが来た時に、被害が少なくなると思うし、まず何をすれば良いかわかる	防災意識を持つ対策	町の人みんな	避難訓練、お年寄りが楽に登れる坂、高台
災害のあとに元気を出す	もよおし物。スポーツや音楽、何でもいのでみんな一緒にする	楽しいことをして、悲しい気持ちを乗り越える。みんなで団結して頑張ろうという気持ちを呼び起こす。	心のケア対策	みんな	もよおし物、スポーツや音楽、一緒に

災害復興会議の結果

第1回復興会議（ソフト対策）

日時:2035年11月11日
場所:由岐中学校1学年教室

どんな町を目指すべきか	どのような対策が考えられるか	期待できる効果	対策	対象者	キーワード
楽しい	祭りをする。遊ぶ	みんな楽しい	町の活性化対策	みんな	祭り、遊び
お年寄りを病院の近くに、若者をお年寄りの近くにする	若者がお年寄りの近くにいたら、すぐに助けに行ける		災害時要援護者対策	若者	お年寄りを助ける
またあのころの由岐町へ	町民一人ひとりが協力し合い、早く町を元にもどす。災害後の復旧を早くする	災害後の復旧を早くして、一人でも死者を少なくする	復旧全般	町民一人ひとり	協力し合う
ふっーうしやすい町	町民全員マッチョ	すぐ避難できる	健康づくり対策？	町民全員	体をきたえる

災害復興会議の結果

第1回復興会議（ハード対策）

日時:2035年11月11日
場所:由岐中学校1学年教室

どんな町を目指すべきか	どのような対策が考えられるか	期待できる効果	対策	対象物	キーワード
	災害を受けると大変なことになる人は、最初から高い位置に建物を建てる	津波が来ても逃げなくてイイ	津波対策	建物	高い所に
みんなで協力し合えるような由岐町をつくらう！	海ぎわの家を減らして、少しでも逃げる距離を短くする	津波でのケガ人を減らせる	津波対策	建物	海ぎわの家を減らす
	使っていない古い建物を壊す。使っている古い建物を強くする		地震対策	建物	撤去、補強
孫たちがこんな目にあわないように！	地震に強い家を建てる		地震対策	建物	耐震
小さなテーマパークを造る	少し元気が出る		心のケア対策	テーマパーク	
今の場所に家を建てても大丈夫な家			地震、津波対策？	建物	
高い山に家がある町	津波が来ない	安心できる	津波対策	町	高い山に
新しい由岐町をつくらう	安心できる防災対策	津波や土砂の威力を弱める	津波、土砂崩れ対策		
地震がきても困らない由岐町をつくらう	地震は強敵対策	地震の特性などを見切り防除	地震対策		予知
津波が来ても大丈夫な由岐町をつくらう!!	津波なんかへっっちゃらだ対策	津波が町に来たときにはただの小さい波!!	津波対策		
由岐町を地震から守らう!!	すべての建物を丈夫につくる	地震が起きても建物が壊れない	地震対策	建物	耐震
安全な由岐町をつくらう	山の上に避難場所をつくる		津波対策	避難場所	山の上
津波に強そうな由岐町	塀を高くして津波対策	津波で死ぬ人が減る	津波対策	塀	高くする
科学的	地震や津波が予測できるようにする災害対策	予測できたら落ち着いて逃げられる	地震、津波対策		予測
ゆれに強い町、由岐	各家を五重の塔のようにする(ただし2階建ての)。家具の固定	地震のゆれに強い	地震対策	建物、家具	五重の塔、家具固定
新しく丈夫な避難所を造る	家がなくなったら、人がそこに住める	不安が少しでも少なくなる	避難所対策	避難所	丈夫に
病院の場所を変える	避難所の近くに建てる	すぐ近くに避難所があるから助かる	医療対策	病院	避難所の近くに
津波に強い町	塀を高くする	損傷が減る	津波対策	塀	高くする
安全な由岐町をつくらう！	防波堤を高くする。お年寄りのためにエレベーター付きの避難場所。老人ホームは高い所に建てる(病院も)。		津波対策	防波堤、避難場所、老人ホーム	高く、エレベーター付き、高い所
津波の災害を受けない町	由岐町全体を浮かせる。あるいは地下に	津波から町が守られる	津波対策	町全体	浮かせる、地下
海底の町	海底に町をつくる。地震が来ても大丈夫のように下を強化する	海底にいたら津波の被害を受けない	津波対策	町全体	海底
	高い塀をつくる	津波を防ぐことができる	津波対策	塀	塀
津波の被害を受けない町	海沿い付近の防波堤を津波と地震に耐えられて、津波の高さよりも高くする対策	津波の被害を受けない	津波対策	防波堤	防波堤、丈夫に高く
被害をできるだけ少なくする町	地震と津波に耐えられる家対策。地震に合わせて家が飛ぶ	下敷きになる人がいなくなる	地震、津波対策	建物	飛ぶ
早く外部からの支援を受けられる町	ヘリコプターなどが来られるような着陸できる場所をつくる	支援を早く受けられる	支援受け入れ対策	ヘリ降着場	離着陸可能
津波が来ない町	でっかい堤防をつくる	津波が来ない	津波対策	堤防	でっかい
津波が来ない町	周囲を埋め立てて、浅瀬にする	津波が来るのが遅くなる	津波対策	海	浅瀬
人が来る由岐町に!!	空き地を減らして博物館などをつくる	人が来る	観光対策	空き地、博物館	
津波がこわい町	災害記念館	災害のこわさを後生に伝える	災害伝承対策	災害記念館	後生に伝える
地震に耐えられる町	すべての家を地震に耐えられるように改造する	負傷者や死者が減る	地震対策	建物	耐震
津波に耐えられる町	町全体を防波堤やテトラポットで囲む	波による被害が減る	津波対策	町全体、防波堤、テトラポット	囲む
山があるからそれを利用して、高い所に家をつくる由岐町	名付けて!!「高高安全対策」		津波対策	建物	高所
地中にすぐ逃げられる由岐町	名付けて!!「地中に逃げ逃げ対策」		避難対策	避難所	地中
津波に負けない由岐町をつくらう！	津波から守るため高いブロックをつくって、ちょっとでも逃げる時間をかせぐ。高すぎず低すぎず	津波は必ず来るので、ちょっとでも逃げる時間をかせぐ。期待は・・・	津波対策	ブロック	高く
逃げろっ由岐町!!	山にキレイな広い道路をつくり、逃げやすくする。2人ずつが5人!?ところどころにつくる。でも自然をそんなに壊さない	逃げやすくなるので助かる。期待は・・・	津波対策	山に広い道路	逃げやすく、自然保護

災害復興会議の結果

第1回復興会議（ハード対策）

日時: 2035年11月11日

場所: 由岐中学校1学年教室

どんな町を目指すべきか	どのような対策が考えられるか	期待できる効果	対策	対象物	キーワード
防災意識の強い由岐町	地震が起きた時に避難所がつぶれたら困るので、避難所になりそうなところを強くする	避難所が確保できる	避難所対策	避難所	強く
すごい由岐町をつくろう	避難所を今の100倍以上つくる	すぐに逃げることで死なない	避難所対策	避難所	たくさん
すごい由岐町をつくる	すべての家を耐震構造にする(役場が負担)	家が崩れたりしない。死なない	地震対策	建物	耐震
	鉄筋の家をつくる		地震対策?	建物	鉄筋
地震に強い由岐町	安心して人が住める町にするために、地震が来ても倒れない建物、崩れない山をつくる	地震の被害を少しでも減らせる	地震対策	建物、山	倒れない、崩れない
高い町、由岐町	町全体を高くする。そうすると津波を防げることができる。海に行く漁師さんはリフトで降りていく。	津波からの被害を少なくできる	津波対策	町全体	高く、海へはリフト
安全な町にする	津波を防ぐために堤防。危ないものを置かない	けがをしない	津波対策	堤防	危ないものを置かない
流されない由岐町をつくろう	家を山の上に建てて、若者は山の下で、お年寄りは上の方で暮らす。ロープウェイをつくる。「でもお金がないし、地震で壊れるかも」		津波対策	建物	山の上、若者とお年寄り、ロープウェイ
	太平洋プレートの間に何か入れる(無理)		地震、津波対策	太平洋プレート	
地震が来た時、すぐ逃げられるまち	道を広げる。耐震工事。高い場所に町をつくる	道がふさがることが少なくなる。家が崩れにくくなる。もし家具の下敷きになっても、津波の心配をしなくてよい	地震、津波対策	道、建物、町	拡張、耐震、高い場所
原人的	地震や津波で家が倒壊したならば、仮設住宅を他の人にゆずって、自分は深い穴を掘り、たて穴住居をつくる	元気を失った子供達は、穴という我が家に「秘密基地」という喜びを感じるであろう	仮設住宅対策	仮設住宅、たて穴住居	秘密基地という喜び
津波に頑丈	津波をセンサーが感知すると閉まる超巨大開閉式の分厚い壁を海岸に配置	金がかかるが津波の被害は大幅に下がるだろう	津波対策	超巨大開閉式の分厚い壁	津波センサー
安全	木造の家を建て替える。道を広げる。山にシェルターをつくる。ガンダムをつくる。訓練をする。木岐グリオンをつくる	ちょっとはもつ	地震対策	建物、道、山	建て替え、拡張、シェルター
津波の被害が少ない由岐町をつくろう!	山の上に家を建てる	津波の被害が少なくなる	津波対策	建物	山の上に
なるべく配給が来るのが早く由岐町をつくる	どこでも着陸できるようなヘリコプターをつくる	早く配給が来る	物資受け入れ対策	ヘリコプター	どこでも着陸可能
地震に強い由岐町をつくろう	骨組みを強化し、補強材を付ける	家具などに押し倒されて死亡する人が少なくなる!?	地震対策	建物	丈夫に
災害に強い由岐町をつくろう!	地上50階、地下50階の家。移動は超高速のエレベーター地下50階から地上50階まで約2秒	地震が来れば地下へ、津波が来れば地上へ行く	地震、津波対策	地上50階、地下50階の家	地震は地下、津波は地上
津波に強い由岐町をつくろう!	テラボットを増やしまくる。できればテラボットで由岐町を囲む	地震さえ耐えれば津波は怖くない!?	津波対策	テラボット	町を囲む
津波に強い由岐町をつくろう!パート2	由岐町すべての家を潜水型にして、津波が来ても家にかくれていれば安全	地震さえ耐えれば津波はこわくない!!	津波対策	建物	潜水型
危ないと思う所へ防波堤を高く築く	津波が入りにくい港を造る	地下に逃げ場を造る。各場所に逃げ場を造る	津波対策	港	地下、逃げ場

災害復興会議の結果

第1回復興会議（その他）

日時: 2035年11月11日

場所: 由岐中学校1学年教室

どんな町を目指すべきか	どのような対策が考えられるか	期待できる効果	対策	対象	キーワード
科学的	地震や津波が予測できるようにする災害対策	予測できたら落ち着いて逃げられる	予知対策	地震や津波	予知、落ち着いて行動
緑が広がる由岐町	浜から半径2kmぐらい、防波林をつくる	津波の勢いをおさえる＝被害の減少	津波の勢い減少対策	浜から半径2km	防波林
助け合える由岐町をつくろう！		災害時、存在を忘れられて死ぬことはない。家族一緒に暮らせる	災害時要援護者対策	一人暮らしの老人	近くに若者の家
植林	木を植える	水が吸収される	植林対策	木	水を吸収
孫の世代は満腹	毎年1家族千円分の食糧を町に寄付し、50年は腐らないという倉庫を開発して、それに入れておく。この倉庫は地震や津波に巻き込まれない所に配置	これでけっこう食糧の心配はなさそう	食糧対策	全世帯	食糧寄付、腐らない倉庫
活気がある	地震の記念館。行事をつぶさない	人が来る	町の活性化対策	地震の記念館	人が来る

由岐町災害復興計画案

(災害復興会議の結果を受けて作成)

心あたたまる町づくり

花いっぱい、歌を歌う

みんながふれあう町づくり

みんなで〇〇する、お茶会、祭り、運動会

防災意識の高い町づくり

防災教育、語り部、災害記念館

高齢者や障害者が感心して住める町づくり

リフトを備えた避難場所(バリアフリー型)、若者と高齢者との関わり、仲の良い家族(一人暮らしの老人をなくす)

自然に配慮した土地利用

高い山に町をつくる、津波の心配のない場所に家や病院などを建てる

産み出す町づくり

働く場を増やす(企業の誘致)、漁業の振興

災害に備える町づくり

- ・地震対策
地震で倒れない家、地震にも津波にも負けない、丈夫な家を建てる、古い家を取り壊す
- ・津波対策
防波林、防波堤、センサーによる巨大津波防止扉
- ・備蓄対策
50年は中身が腐らない防災倉庫、各地域で食糧・衣料・医薬品などを蓄える
- ・支援の受け入れ対策
災害支援列車、災害ボランティア、ヘリコプター降着場
- ・各家庭の備え
地震保険の加入
- ・避難対策
山に通じる広い道路、道路を広げる、避難所の耐震化、地下に避難する
- ・情報通信対策

若者が住みやすい町づくり

安心して子育てできる町づくり

3-6 防災カレンダーづくり④「7～12月まで」

目的

前回、30年後をイメージして由岐町災害復興計画案を作成したが、その中から各班ごとにテーマを選定し、カレンダーに使用する素材の表現方法を考える。そしてその表現方法に基づいて、班で協力して素材を完成させることにより、次世代を含む地域全体に提案するカレンダーを完成させる。

流れ

1. DVD学習「NHKスペシャル いつかまた故郷へ ～山古志村・村民たちの80日～」(1日目)
 - (1) 旧山古志村80日間の映像を観る(災害による悲しみ、復旧・復興の難しさを知る)。
2. カレンダー素材作成方法の検討
 - (1) 各班は、前回作成した由岐町復興計画案の中から、カレンダーの素材にするテーマを選定する。
 - (2) 選定したテーマをどのように表現するかを相談し、決まった内容を紙に書く。
3. 各班ごとの発表
 - (1) 各班ごとに、選定したテーマ及び表現方法について発表する。
4. カレンダー素材の作成作業(2日目、3日目)
 - (1) 1日目に決定した素材の作成方法に従って、班で協力しながら素材を作成する。
5. データの加工及びデータ入稿(スタッフが担当)
 - (1) Adobe Illustrator 10及び、Adobe Photoshop 6.0を使用して素材を加工し、カレンダーのデータを作成する。
 - (2) 作成したデータを印刷会社にデータ入稿する。



素材作成の様子「サランラップ」班



素材作成の様子「個人軍」班

各班のテーマ等

(1) 外野の人たち

テーマ：まちづくり構想案をつくろう！

内容：災害復興計画の中に出てきた提案を地図に記入し、まちづくり構想案を作成する。

素材ベース：白地図

必要な物：白地図、マジック、色鉛筆、ペン

(2) くまちゃん

テーマ：津波防潮林

内容：湾内の航空写真に木を描いた紙を貼り付け、津波の威力を抑える防潮林を表現する。

素材ベース：航空写真

必要な物：湾内の航空写真、色画用紙、のり

(3) 個人軍

テーマ：防災教育

内容：一人が先生役、その他の者が生徒役となり、先生役が生徒役に対して津波高を示している様子を写真に撮り、防災教育の大切さを表現する。

素材ベース：写真(実写)

必要な物：スタッフ、大人の服装、デジカメ、ペットボトルのキャップ、割り箸

(4) サランラップ

テーマ：高い所に町をつくる

内容：津波から襲われない、高くて安全な場所の整備の必要性を、4コママンガ風に表現する。

素材ベース：絵

必要な物：画用紙、絵の具(生徒個人)

(5) 読売巨人軍

テーマ：お年寄りとお若者との絆

内容：デイサービスセンターに行き、そこでお年寄りとお交流しているところを写真に撮り、お年寄りとお若者との絆の大切さを表現する。

素材ベース：写真(実写)

必要な物：デジカメ

(6) フリーダム

テーマ：みんなであいさつする

内容：人の絆の大切さを絵と写真を使って表現する。写真は地域に出て、地域の人々の笑顔を撮ってくる。

素材ベース：絵、写真(実写)

必要な物：画用紙、絵の具、デジカメ

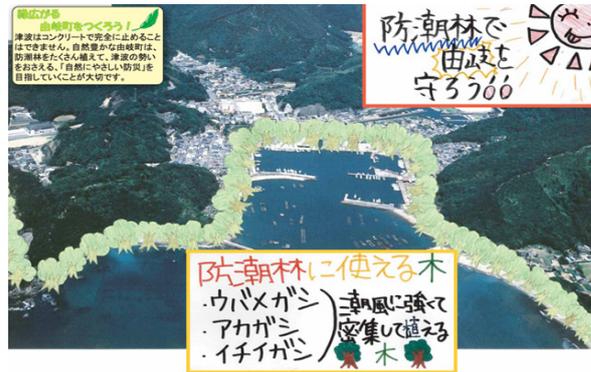
「外野の人たち」班

テーマ:まちづくり構想案をつくろう!



「くまちゃん」班

テーマ:津波防潮林



「個人軍」班

テーマ:防災教育



「サララップ」班

テーマ:高い所にまちをつくる



「読売巨人軍」班

テーマ:お年寄りと若者との絆



「フリーダム」班

テーマ:みんなであいさつ





1月 「またあとで」なんて言わずに 備えよう

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12 <small>T3 桜島大噴火</small>	13 <small>S20 三河地震</small>	14 <small>S53 伊豆半島近海地震</small>
15	16	17 <small>H17 阪神淡路大震災</small>	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

作成者/喜和田 舞、別宮 啓太、別宮 隆利、松本 玲奈、森 歌奈子



災害防災インタビュー

2月

「助かる!!」気持ちを大切に

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 <small>S36 長岡地震</small>	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21 <small>S11 河内大和地震 S43 えびの地震</small>	22	23	24	25
26	27	28				

作成者/大谷 刻、土内 彩、松田 恵利奈、山田 真子、和田 天音



災害時要援護者対策

3月 守り合い 支え合うこそ 友情の輪

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 <small>S27 十勝沖地震</small>
5	6	7 <small>S2 北丹後地震</small>	8	9 <small>S21 桜島噴火</small>	10	11
12	13	14	15 <small>T3 秋田仙北地震</small>	16	17	18
19	20	21 <small>S57 浦河沖地震</small>	22	23	24 <small>H13 芸予地震</small>	25
26	27	28	29	30	31 <small>H12 有珠山噴火</small>	

作成者/猪谷 奈美、中川 祐樹、別宮 千捺、森本 貴之、由岐中 太士、由岐中 さゆり



4月 分かっているようで 分かっていない 災害の怖さ

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

作成者/筋野 里佳、増本 千恵、松岡 秀弥、宮本 啓太、山田 菜、由岐中 琢馬



心肺蘇生講習

5月

あなたの行動が みんなを救う

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9 <small>S49 伊豆半島沖地震</small>	10	11	12	13
14	15	16 <small>S43 十勝沖地震</small>	17	18	19	20
21	22	23 <small>T14 北但馬地震</small>	24 <small>S35 チリ地震津波</small>	25	26 <small>S58 日本海中部地震 H15 宮城県沖地震</small>	27
28	29	30	31			

作成者/朝海 梢、勇 夕希、井出 圭祐、大谷 大翔、幸木 隼斗



6月 身近にある危険 高めよう 防災意識

日 月 火 水 木 金 土

				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 <small>S53 宮城県沖地震</small>	13	14	15 <small>M29 三陸地震津波</small>	16 <small>S39 新潟地震</small>	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28 <small>S23 福井地震</small>	29 <small>S37 十勝岳噴火</small>	30	

作成者/粟田 千紀呂、海司 幸治、中林 可奈子、濱宮 香澄、平井 孝明



7月 全員で 助けあえれば 頑張れる

日 月 火 水 木 金 土

						1
2	3	4	5	6	7	8 <small>H12 三宅島噴火</small>
9	10	11	12 <small>H5 北海道南西沖地震</small>	13 <small>H元 伊東沖海底噴火</small>	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31 <small>H5. 7. 31~8. 7 平成5年8月豪雨</small>					

作成者/喜和田 舞、別宮 啓太、別宮 隆利、松本 玲奈、森 歌奈子

**緑広がる
由岐町をつくろう!**
津波はコンクリートで完全に止めることはできません。自然豊かな由岐町は、防潮林をたくさん植えて、津波の勢いをおさえる、「自然にやさしい防災」を目指していくことが大切です。



防潮林に使える木
・ウバメガシ
・アカガシ
・イチイガシ
) 潮風に強くて
密集して植える
木

8月 備えよう 恐怖の津波が来る前に

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3 <small>S40 松代群発地震</small>	4	5
6	7 <small>S52 有珠山噴火</small>	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19 <small>S36 北美濃地震</small>
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31 <small>M29 陸羽地震 H5.8.31~9.5 台風13号</small>		

作成者/大谷 刻、土内 彩、松田 恵利奈、山田 真子、和田 天音



**みんなが協力して、
防災教育をすすめよう!**

小・中学生に地震や津波の怖さ、防災知識などを教えて、地震や津波が来た時に、正しくすばやく行動できる人を育てよう。そして、みんなが協力して、より良い由岐町にしよう!

9月 日頃から考えておこう 災害のことを

日 月 火 水 木 金 土

					1 <small>T12 関東大震災</small>	2
3	4	5	6	7	8	9
10 <small>S18 鳥取地震</small>	11	12	13	14 <small>S89 長野県西部地震</small>	15	16
17 <small>S27 明神礁大噴火</small>	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

作成者/粟田 千紀呂、海司 幸治、中林 可奈子、濱宮 香澄、平井 孝明



10月

津波が来たら 全力疾走 高台へ

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 <small>S58 三宅島噴火</small>	4 <small>H66 北海道 東方沖地震</small>	5	6 <small>H12 鳥取県西部 地震</small>	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 <small>H16 新潟県 中越地震</small>	24	25	26	27	28 <small>M24 濃尾地震 S54 御嶽山噴火</small>
29	30	31				

作成者/筋野 里佳、増本 千恵、松岡 秀弥、宮本 啓太、山田 梨、由岐中 琢馬



**交流から学ぶ
人と人のつながり** 

お年寄りと若者が、普段から心と心の交流をすることで、いざというとき、若者がお年寄りをすぐに助けるようにする。おじいさん、おばあさんが安心して暮らせる由岐町をつくらう！

11月 お年寄りを優先して助けよう

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15 <small>S81 伊豆大島 大噴火</small>	16	17 <small>B2 雲仙普賢岳 噴火</small>	18
19	20	21	22	23	24	25
26 <small>S5 北伊豆地震</small>	27	28	29	30		

作成者/朝海 梢、勇 夕希、井出 圭祐、大谷 大翔、幸木 隼斗



**みんな笑顔であいさつ、
心と心をつなげよう！**
災害時に助け合うためには、普段から話をしたり、笑顔であいさつをすることが大切です。それが災害時だけでなく、「元気な由岐町」をつくることにつながっていきます。

12月

今から深める 近所の仲

日 月 火 水 木 金 土

					1	2
3	4	5	6	7 <small>S19 東南海地震</small>	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21 <small>S21 南海地震</small>	22	23
24	25	26 <small>H16 インドネシア・スマタラ島沖地震</small>	27	28	29	30
31						

作成者/猪谷 奈美、中川 祐樹、別宮 千捺、森本 貴之、由岐中 太士、由岐中 さゆり

3-7 防災意識を地域に広める(防災カレンダーの配布)

目的

地域との関わりをさらに深めるために、今年度の由岐中学校防災教育の中で、お世話になった地域の方々に防災カレンダーを配付する。また講師の先生方には防災カレンダーを郵送するが、その際に手紙の書き方の基本を学ぶことも目的とする。

流れ

1. 防災カレンダーを配付・郵送する人の選定(1日目)
 - (1) あらかじめ先生は、下記のリストを作成しておく。
 - ・防災教育でお世話になった地域の方々
 - ・防災教育でお世話になった講師の方々
 - (2) 生徒達は各班に分かれて、カレンダーを配付・郵送する人を選定する。
(時間の都合上、配付する人は各班2名、郵送する人は各班1名に限定する)
 - (3) 各班でカレンダーを配付・郵送する人に手紙を書く。
この際、手紙の書き方の基本を教える。
2. 防災カレンダーを配付・郵送する(2日目)
 - (1) 6つ班を、前半配付・後半郵送組と、前半郵送・後半配付組に分ける。
 - ・前半配付・後半郵送組：フリーダム、外野の人たち、読売巨人軍
 - ・前半郵送・後半配付組：くまちゃん、サランラップ、個人軍
 - (2) 班に分かれて配付、郵送作業を行う。
地域の人々との関係を深める。
3. 最後の話



手紙を書く様子「外野の人たち」班



カレンダーを配布する様子
「くまちゃん」班

3-8 防災学習を終えて(生徒達の感想)

今までの防災学習では、いろいろな人にお世話になりました。防災について、見たり聞いたり、体験するなどたくさんのかんことをしました。そのことで、知らなかったことが分かったり、防災について考えるようになりました。

私は、防災学習をしてきて、「人を助けること」「一番大切なのは命」とか、災害時にどうすればよいかなどを学びました。だから、自分が災害にあった時は、この学習を活かしたいです。

防災学習でカレンダーを作った。私の班のキーワードは「防災学習」だ。私はこの防災学習の時間に、いろいろなことを学んでいた。この時間がなかったら、私は災害についてほとんど知らなかったと思う。やっぱり災害に備えるには災害について知らないといけないと思った。だから、防災の知識について知ってもらいたくて、このキーワードにしました。

最初は、防災やどーでもいいし、とか思っていた。でも実際に学習してみて、やっぱり大切なことだ、ここで学習したことを将来活かそう！と思い初め、今では総合が大好きです。カレンダー作りは、とても楽しいです。完成するのがとても楽しみで、わくわくしています。

浜さんや今までお世話になった人に感謝して、これからの自分を生きたいです。いつまでも命を大切にしたいです。

自分は、防災学習のすごさがわかったのは、全国で20校と聞いた時だった。それからも「世界一受けたい授業」などで、自分たちがしていることをやったりしていたのです。

由岐町をどんな町にしていくかという時には、いろいろなユニークな意見がとびかい、自分もいろいろ発言しました。今から、町の人たちとのかかわりを深めあうことの大切さもわかったし、マップ作りでは、町内のあぶないところや、安全な場所もわかってよかった。また来年もやりたいと思った。

私は「防災教育チャレンジプラン」で、20校の中の1校に選ばれた、と聞いてびっくりしました。それとやる気が今まで以上にわいてきました。担当の浜さんはおもしろくて毎時間楽しかったです。何カ月もお世話になった齋藤君は、あんまり話したことはなかったけど、なんか、すんごい年上のお兄さんって感じで頼もしかった(?)です。カレンダー作りは、もう終わりなので、次の発表へ向けてがんばりたいです。

僕は、防災学習でいろいろな事がわかりました。地震や津波のこと、あぶないところや地域の人の考え方がわかりました。

防災の授業は、おもしろかったです。一番楽しかったのは、地域にインタビューした時です。一番きつかったのは、ねんりんに行った時です。

授業は自分らのためになったと思いました。防災学習をとおして、いろいろな経験ができました。感謝しようと思います。

この一年間おもしろかったことも苦しかったときもあったけど、とてもたのしかったです。ぼくの班はぼくがただ一人の男でした。だから遊んでいるとよくおこられました。でも、楽しかったこともありました。それは齋藤君と校外に出て、西由岐を調べたことです。とてもたのしかったです。そのあと、防災カレンダーを作ったりして、色々あったけど、とてもたのしかったです。

最初のそっちょくな感想は「あんまりおもしろそうでないな」と思っていたが、だんだんやっているうちにおもしろくなさそうが、おもしろいにかわっていきました。

浜さんが僕らを笑わせてくれたりしてすごく楽しかったです。あとから早稲田大学の齋藤先生(くん)が来てくれ、楽しくてよく分かる授業ができました。

僕は災害がおきたりしたら一人でも多くの命を助けられるような人になりたいです。

総合の勉強をする前はあまり防災意識がありませんでした。でも、この総合の勉強をし色々な場所の被害現場などをテレビなどで見て「私達の町もこんなふうになってしまうのかな?」とか色々な疑問が出てきて、でも、総合の勉強をして疑問に思っていたことが解決していき一つのカレンダーが作れました。こうして楽しく総合の勉強がてきたのも浜さんたちが場を盛り上げてくれたからだと思います。本当に一年間いい学習ができました。ありがとうございました。

防災学習をして、僕はさまざまなことを学びました。地震の怖さ、津波の危険さなど防災の知識がたくさん高まりました。中でも、他の地域に行って、写真を撮ったり、インタビューをしたりして、そのことから聞き出したことをもとに防災マップとかを作って発表したりしたのが、一番楽しかったです。浜さんをはじめ、齋藤君や、たくさんの人々にお世話になりました。あなた方のおかげで、僕はたくさんのことを学べたと思います。

防災学習では、色んな事が勉強になりました。しかも、その学習の仕方が楽しかったです。初めて「この防災学習に選ばれるのは難しい」って聞かされてビックリしました。

この防災教育で色んな人に出会えて色んな人に教わりました。たとえば浜さんや齋藤君、でっかい人に大学の先生…。今思うと本当に、自分たちは貴重な経験をしたと思います。その習った事を活かしていきたいです。

災害というものは、どれだけ怖いか防災学習をして分かりました。町民の人たちがその怖さを分かれば、少しでも町全体の防災意識が高まって少しでも被害を少なくできるかもしれません。浜さん、齋藤くんなどいろいろな事が学べて楽しかったです。いろいろな活動をして、時にはふざけたりしたけど重要な事を学べたと思います。みんなと考えたりするのが楽しかったです。町全体がちょっとでも良い方向になればいいなと思います。

防災学習では、地震のことをならって地震のことがよくわかりました。

この一年間、防災についていろいろ学習しました。とくに意識していなかったけど、実際に町に出て、地域の人達に話を聞いたりして、まとめたりしていると、いろんなことがわかってきました。「昔はこうだった」とか、「津波がきて、ここがこうなった」などと教えてくれて、昔こうなったから今はこうしているということなどがわかりました。

こうやって学習していくうちに、防災について意識するようになりました。

この学習をするまで地震とかに興味とかに関心はなかったけど、やってみるとおもしろかったし、楽しかった。それに色々知るコトができた。浜さんの授業はおもしろおかしく、でも大切なコトもたくさんあって楽しんで勉強できた。浜さん以外にも色々な先生方にお世話にもなって大事なことをたくさん学びました。みんなで作ったカレンダーは由岐だけでなく、色々な人に毎日楽しく見てほしいし、このカレンダーで防災意識を高めてほしい。

防災学習で、一人一人が防災を思いを持ち、自分だけが助かるなどと思わず、みんなで助かることを思ってもらいたい。もし由岐町で地震がおこると、由岐町の人、どうするのだろうか。僕たちみたいに防災のことをよく知っていれば、一人でも多くの人を助かると思う。僕はまず、ゆれがおさまるまで待って、すぐににげる。そのときに逃げられない人がいたらみんなに協力してもらい、いっしょににげる。

1学期からずっと勉強してきた防災学習ですが、今まで色々なことをしてきたなぁと思います。色々な講師の人に来てもらったり、町の人にインタビューをさせてもらったり、たくさんの人にお世話になったと思います。特に早稲田大学から来てくれた齋藤さんには色々手伝ってもらったりして、すごく助かりました。「自分達の町は自分達で守る」をモットーにして、これからも、浜さんと、先生方と、クラスみんなで頑張りたいです。

私は、防災学習でカレンダー作りをしてみんなと協力してできたのでよかったと思いました。自分ではすごく上手にできたし、すごくたのしかったです。なんだか最初は上手にできるのかちょっと不安だったけど、上手にできてよかったです。

とくにがんばったのは、由岐町の人々の笑顔を撮ることです。聞いた人のうち、何人が写真を撮られるのがいやと言う人もいたので大変でした。協力してくれた人にすごく感謝しています。ありがとうございました。

この防災学習をする前僕は、「一学期の間やって終わりかな」と思っていたけど、二学期にスケールの大きさを聞いてびっくりしました。

一学期のことで一番心に残っているのはフィールドワークです。地域の人々の色々な取り組みや意外な所があってびっくりしました。

二学期は齋藤さんと一緒に作ったカレンダーや、齋藤さんの最後の話が心に残っています。

今までの浜さんや色々な人に教えてもらったことによって防災に対する意識が変わりました。これからも今まで学んだことを生かせると思います。

一学期、地域の人たちに南海大地震のことについて話を聞いて来て、地震にあって危険な目にあった人もいれば、ちょうど旅行に行っていて無事だった人もいました。

二学期は、カレンダーづくりをしました。私のグループは友達がつくった災害ポスターをカレンダーにはったり、4コママンガをつくってカレンダーにはりました。

三学期も発表があるのでがんばりたいです。

今まで、防災学習をしてきて、前よりも防災意識が高まりました。

まず初めに、防災マップを作った時に、外に出て町の人に話を聞く、という学習は楽しかったです。防災カレンダーは、町民が見るので、力を入れてがんばりました。まあまあ仕上がりがよかったです。今までやってきた防災学習を、生活に活かしていきたいと思いました。

防災学習では、カレンダー作りをしました。私たちの班では「防潮林」をキーワードに、航空写真をつかってどこにどんな木を植えたらいいかを調べました。一番重視したのは、「潮に強く、密集して生える木」です。これは、防潮林だから潮に強くて、いっぱい生えたら津波の勢いも少しは弱まるだろうと思ったからです。

このアイデアをいかして、南海地震や大きな被害から由岐町を守りたいです。

地震とかホンマに来るん？って思っていたけど、防災の勉強をしたら「地震ってコワッ」って思うようになりました。

毎週金曜日の5、6時間目が楽しみの時間になりました。浜さんは楽しく授業をしてくれて、笑顔で話してくれる優しい人で、齋藤くんは面白い人でした。

防災学習でおそわったことを、これからも活用していきたいです。

防災学習をして一番わかったことは、地震の怖さ、津波による被害です。浜さんがとても楽しく防災をしてくれて、とても楽しかったです。由岐町の津波の来るところなどを学べてよかったです。そして一番印象に残っているのがカレンダーづくり、由岐町を地震、津波から守る対策から考えて、とても楽しいカレンダーづくりでした。今、ぼくたちが由岐町をかえらぬ思いながらしています。とても楽しいフォー！

防災学習は、すごく楽しかったです。

私は、防災にはぜんぜん興味が無かったけど、防災学習をして普段から備えておく事は大切だなと思いました。町で、インタビューとかもして、地震や津波の恐ろしさとかも分かりました。

一年間、防災学習をしているんな事が分かりました。防災学習でしたことを実際に、生活で実行していけたら良いです。

防災学習をすると聞いたときは正直どうでもよかった。その防災学習で色々なことを知った。津波の来る時間、人工呼吸法、防災道具など。しかし、それらは最終的には死なないためと思う。ジョークを言いながらも熱心に教えてくれる浜さんも僕たちに死んでほしくないから教えてくれるのだと思う。僕らもひと言ではすまない。いつかは来る南海地震に備え日々用心するべきであろう。

私は、防災学習をしてきけんな場所や津波がきたらどこににげたらいいかがわかってすごく役立った。それに、インタビューに行ったことで由岐町の人とふれあえたし、ポスター作りもおもしろかったし、楽しく勉強できたと思います。

やっぱり由岐町は私たちが守らなければならないと思いました。

一学期から防災学習をしてきて、地域の人たちとも、よくしゃべれるようになったし、地域の危ない所や安全な所、お年よりが住んでいる家など、調べていくうちに地域のことが分かってきました。これからも、地域の輪を広げていきたいと思います。それと、お年よりを大切にしていきたいです。

防災学習は浜さんのボケ&ツッコミが印象的でした。特につなぎの人が来てくれたトキはめっちゃおもしろかったです。齋藤君はみんなにイジられっぱなしで見てて同情してしまいました。こういうおもしろい面もあれば真剣な面もあり、私はめっちゃ良かったと思います。そして何よりイチバン良かったのは町の人とのつながりが出来た事です。

これからは由岐町の人と助け合いながら生きていきたいです。

ぼくは、防災学習をして、初めは、防災の事なんか、なんにも知らなかったけど、浜さんと、齋藤さんが来て、いろいろ教えてもらいました。齋藤さんは、東由岐の祭りに参加していたし、防災学習の時も、おもしろかったけど、東京に帰ってしまいました。その時は、ちょっと寂しかったです。けど浜さんがいて、浜さんもいろいろ笑わしてくれました。この防災学習で、防災の事がよくわかりました。

一学期から今まで防災学習をして、何回かいろんな人を呼んでいろいろなことがわかりました。最後の方からは、防災カレンダーづくりになって、班であつまってするのが多くなってけっこう話とかもできて楽しかったし、外にでることもあったりしたのでおもしろかったです。このカレンダーが由岐町中にくばられて、自分の家に来るのがちょっとだけたのしみです。

やっと終わった、これがとりあえず今の感想です。ビデオを見たりインタビューをしたりと、色々やってきた結果が一冊のカレンダーになると思うと、ちょっと感動します。でも災害のおそろしさがちゃんと伝わるかどうか、不安でもあります。だから2、3年生の前で発表する時に、今までやってきたことを、ちゃんと伝えられたらなと思います。

おわりに

わが由岐町では、来るべき南海・東南海地震に向けて防災活動が盛んに行われています。昨年度由岐中学校でも3年生の総合的な時間の学習で防災のことについて取り組み、その集大成として文化祭で劇をしました。それは、全校生徒や町民に防災意識の高揚を図り、地域のつながりの大切さをアピールすることをねらいとした内容でした。町民からは予想以上の反響があり、「この町にとって人と人とのつながりがいかに大切なものであるか改めて考えさせられた。」等の感想が寄せられました。また劇を演じた生徒達も、仲間や家族・近所の人たちとの絆の大切に気づくと同時に、ふるさとの良さを再発見することができました。

この取り組みが由岐町を愛する子どもたちの育成とより人と人とが近い町づくりにつながっていくと確信し、今年度も引き続き防災教育を実施していくことにしました。

この防災教育を通じて生徒達は、より深く自分たちのふるさについて知ることができたと思います。地域に入って災害時に危険な場所や避難場所・避難経路を確認する中で、これまで知り尽くしていると思っていた由岐町の通ったことのない路地や、見たこともない景色を発見したという生徒もいました。また、多くの生徒が地域の人とふれあいをもつことで、改めて自分をとりまく人々の優しい輪を感じてくれたようです。当初生徒の中には、若者の町外への流出・産業の衰退などのマイナス部分にとらわれ、ふるさとに誇りを持たずにいた者も少なからずいました。しかしその生徒達も、この活動を通して由岐町には温かい人と人とのつながりが確かにあり、それは代々受け継がれてきた何にも換えがたいこの町の財産であることに気づけたようです。人や物にあふれる都会に憧れを抱くのは悪いことではないし、夢多き若者にとってはむしろ当然のことと考えます。しかしその一方で、これまで自分を育ててくれたふるさとを思う気持ちをより大切にしてほしい、そして町の将来を担っていくのは他の誰でもない、自分たちなのだという自覚をもって生活をしてほしいと、願っています。

資料編

人と人との温かいつながり
ふるさとを愛する心